

第2章 静岡市の現状と課題

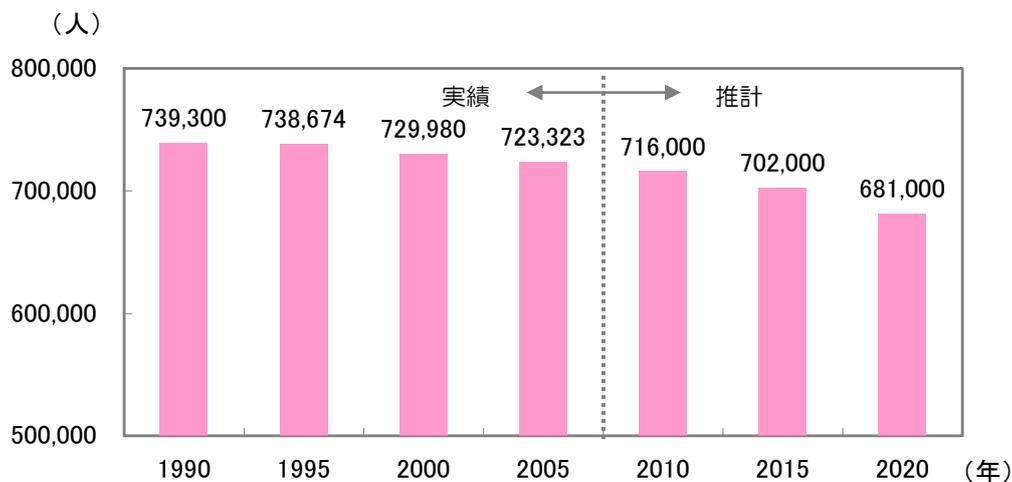
1 少子化の現状

(1) 本市人口の推移

本市は、平成15年(2003年)に旧静岡市と旧清水市が合併して70万人都市として新たに誕生し、平成17年(2005年)には指定都市となりました。その後、平成18年(2006年)に旧蒲原町、平成20年(2008年)に旧由比町と合併しましたが、人口は平成2年(1990年)をピークに減少し続けています。

今後も減少傾向にあり、平成32年(2020年)には、約68万人になると推計されています。(図1参照)

【図1】静岡市の将来推計人口の推移

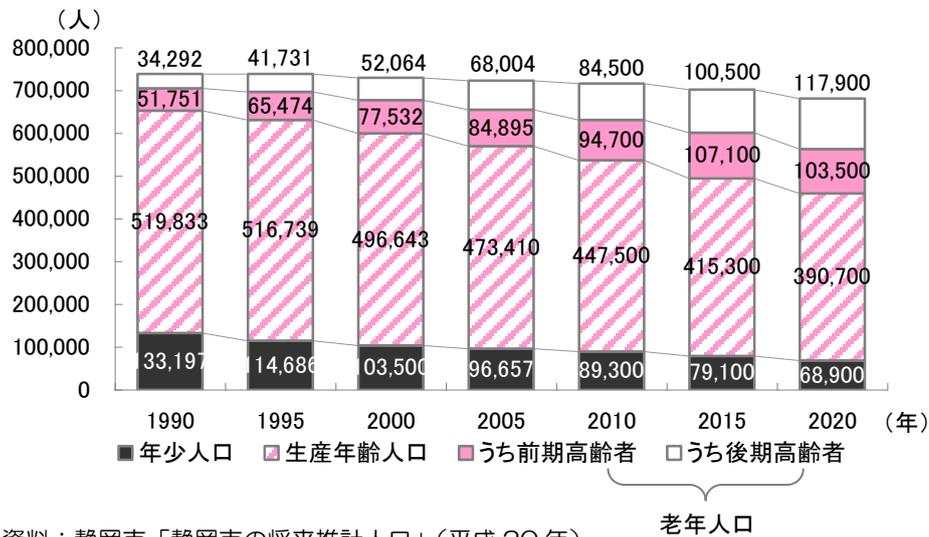


資料：静岡市「静岡市の将来推計人口」(平成20年)

また、年齢別(3区分)でみると、年少人口(0~14歳)は、平成12年(2000年)は103,500人で総人口の14.2%でしたが、平成17年(2005年)には96,657人と総人口の13.4%まで減少しています。この傾向は今後も一層進行すると考えられ、平成32年(2020年)には総人口の10.1%にまで減少するものと推計されています。

一方、老年人口(65歳以上)は、平成17年(2005年)は152,939人で総人口の21.1%でしたが、平成32年(2020年)には221,400人と総人口の32.5%にまで増加し、ますます少子高齢化が進んでいくことが推計されています。(図2参照)

【図2】静岡市の将来推計人口の推移（3区分別）



（2）児童数・生徒数の推移

保育園児童数は、ここ数年ほぼ横ばいであり、幼稚園児童数は、毎年減少しています。（図3参照）

また、小学校児童数及び中学校生徒数は、減少傾向にあります。（図4・5参照）

【図3】保育園・幼稚園児童数の推移

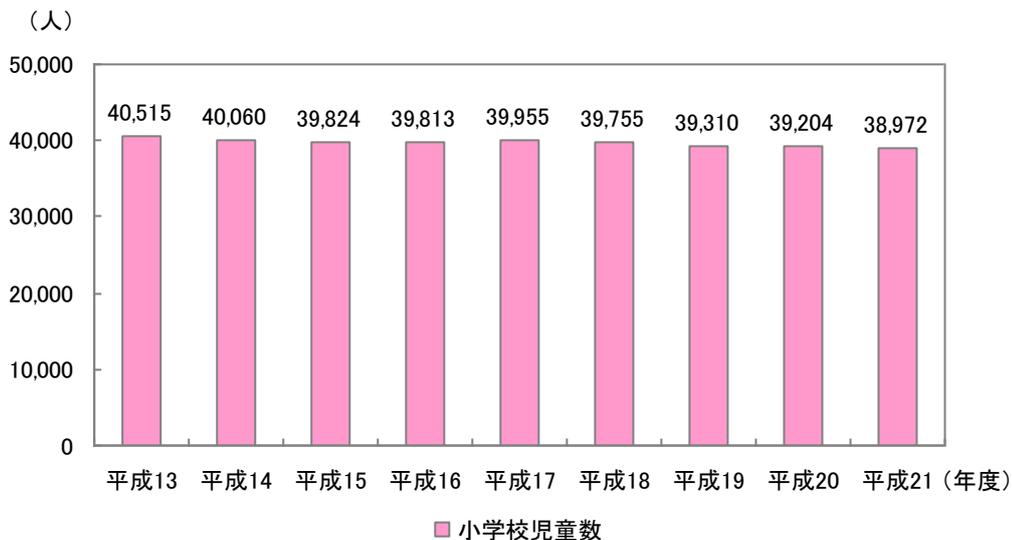


（注1）保育園児童数は各年4月1日現在、幼稚園児童数は各年5月1日現在

（注2）合併前の各年については、蒲原町及び由比町の数値を加えています。

資料：静岡市「保育園・幼稚園児童数の推移」（平成21年）

【図4】小学校児童数の推移



(注) 市内にある国公立私立小学校の児童数で、各年度5月1日現在の数値
 資料：静岡市「静岡市の教育」(平成13～21年度)

【図5】中学校生徒数の推移



(注) 市内にある国公立私立中学校の生徒数で、各年度5月1日現在の数値
 資料：静岡市「静岡市の教育」(平成13～21年度)

(3) 出生の推移

全国の合計特殊出生率(※)は、平成17年に1.26と過去最低まで落ち込みましたが、平成18年から3年連続で上昇しています。本市の合計特殊出生率は、全国と比較すると、毎年低い数値で推移しており、平成20年は1.32(全国1.37)となっています。(図6参照)

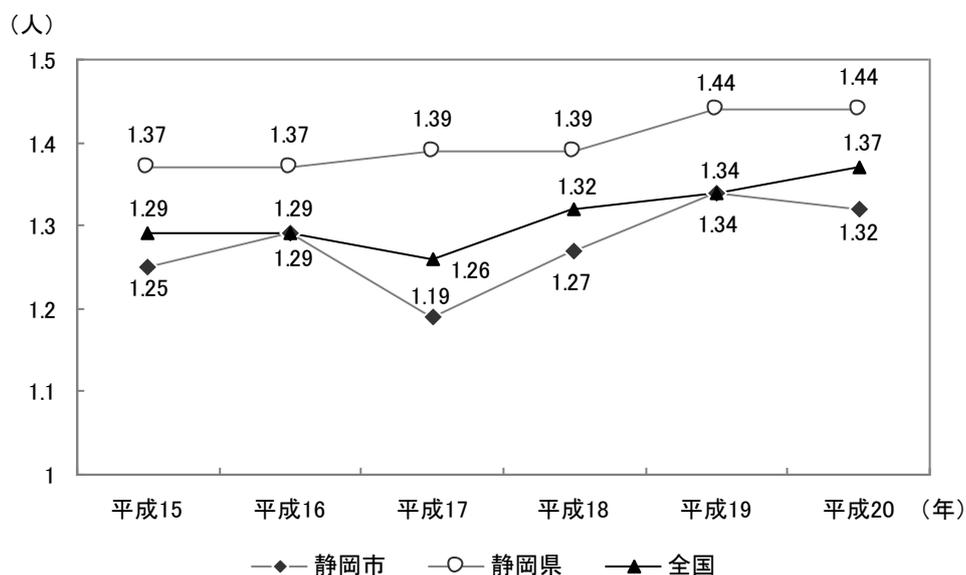
具体的な出生数においては、毎年約6,000人程度であり、平成15～16年と比較すると若干減少傾向にあります。(図7参照)

また、人口自然増加率(人口千対)について各指定都市と比較してみると、本市の人口増加率は低い状況にあります。(図8参照)

※合計特殊出生率

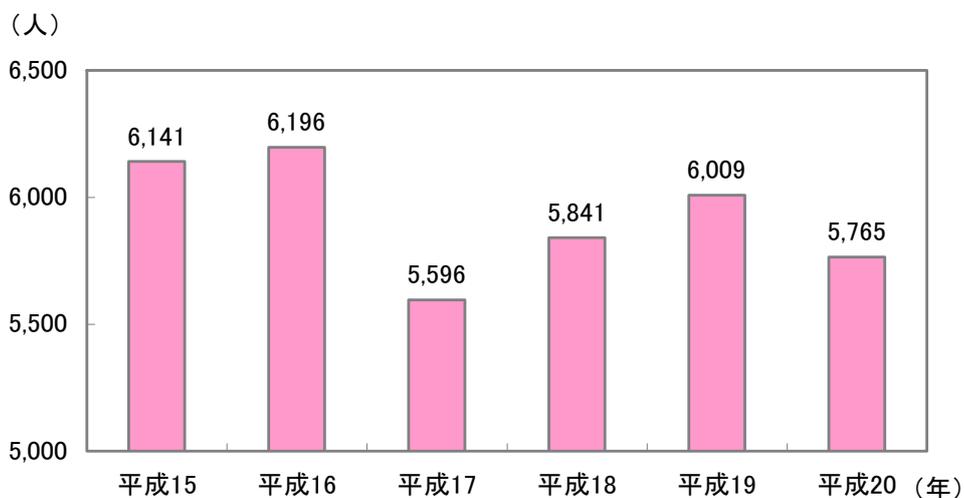
15歳から49歳までの女性の年齢別の出生率を合計したもので、一人の女性が平均して一生の間に何人の子どもを産むかを表します。合計特殊出生率が2.08を下回ると、人口は減少に転ずると言われています。

【図6】合計特殊出生率の推移



資料：静岡市「合計特殊出生率の推移」(平成21年)

【図7】出生数の推移



資料：静岡市「静岡市の出生数の推移」(平成21年)

【図8】各指定都市の人口自然増加率 (人口千対)

(単位：人口千対)

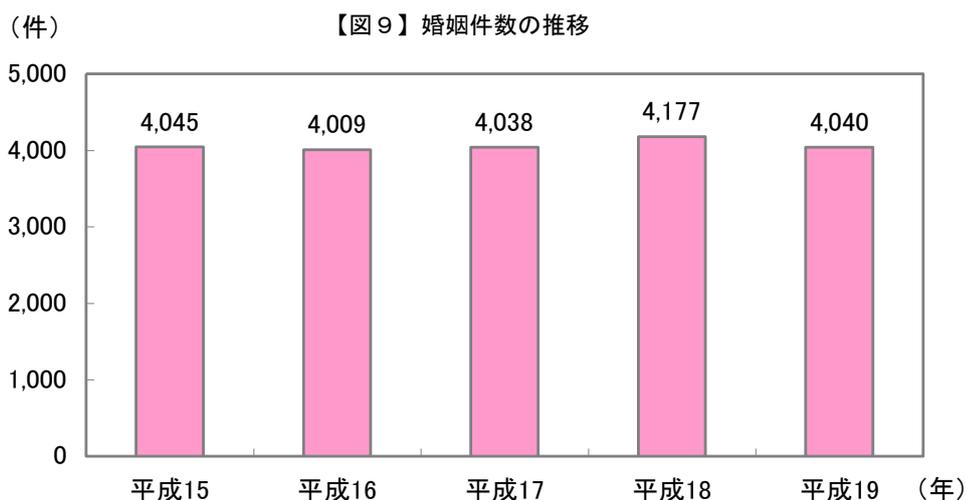
指定都市	出生	死亡	自然増加	指定都市	出生	死亡	自然増加
札幌市	7.7	7.4	0.2	名古屋市	9.0	7.9	1.1
仙台市	9.2	6.5	2.7	京都市	7.9	8.6	△ 0.7
さいたま市	9.1	6.4	2.7	大阪市	8.7	9.2	△ 0.6
千葉市	8.6	6.6	2.0	堺市	9.3	7.8	1.6
川崎市	10.3	6.1	4.2	神戸市	8.2	8.3	△ 0.1
横浜市	9.0	6.7	2.2	広島市	9.9	7.2	2.7
新潟市	8.2	8.7	△ 0.6	北九州市	8.6	9.6	△ 1.0
静岡市	8.4	8.9	△ 0.5	福岡市	9.7	6.4	3.4
浜松市	9.3	8.0	1.2				

資料：大都市統計協議会「大都市比較統計年表」(平成19年)

(4) 婚姻の状況

本市の婚姻件数は、毎年約 4,000 件で推移しています。(図9参照)

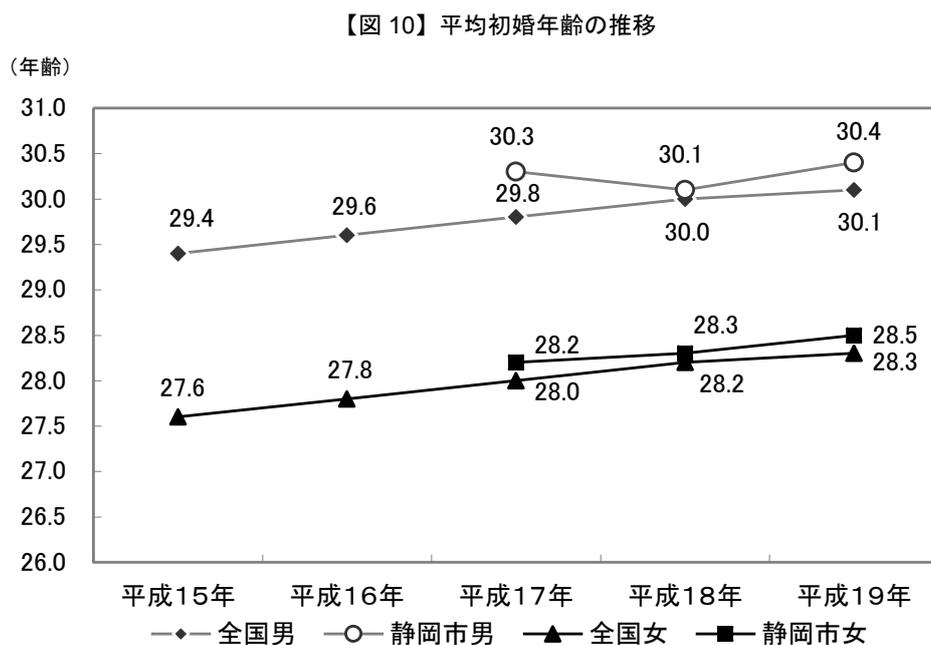
平均初婚年齢は、平成 19 年は男性が 30.4 歳(全国 30.1 歳)、女性が 28.5 歳(全国 28.3 歳)となっており、全国と同様で男女とも上昇傾向にあり、晩婚化が進んでいます。(図 10 参照)



(注1) 平成 15 年～平成 17 年の数値は、旧蒲原町及び旧由比町分を含まない数値

(注2) 平成 18 年～平成 19 年の数値は、旧由比町分を含まない数値

資料：静岡市「静岡市統計書」(平成 20 年版)



資料：厚生労働省「人口動態統計」(平成 15～19 年)

2 子育ての現状

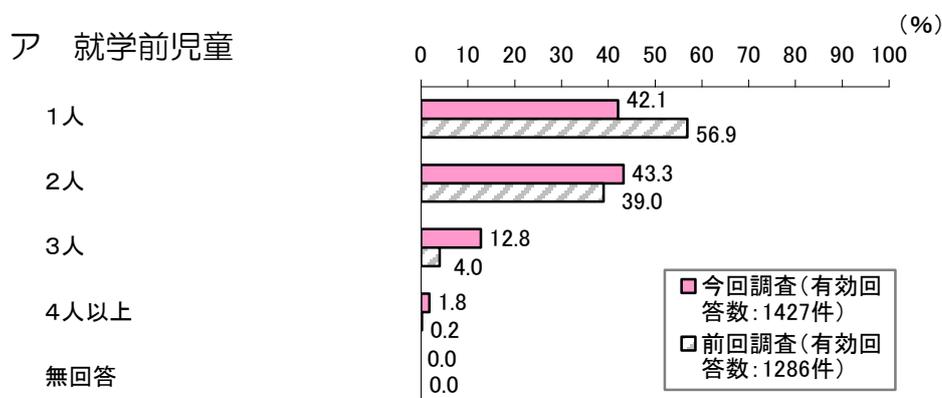
(1) 実態調査結果

核家族化や女性の社会進出等により、子育て環境は年々変わっています。本市においても、その現状を捉えるため、平成 20 年度に実態調査を実施しました。(調査の実施概要や詳細については、市ホームページ(子育て支援課)に掲載されている調査結果報告書をご覧ください。)

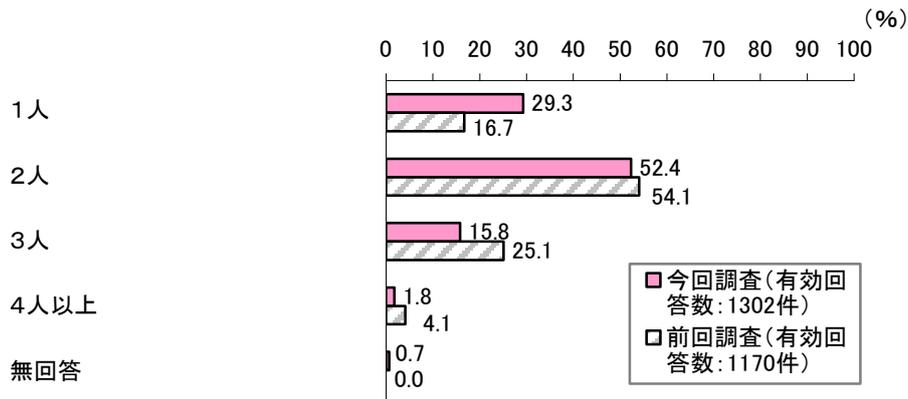
- ※1 「就学前児童(今回調査)」のグラフデータは、平成 20 年 4 月 1 日時点で 0~5 歳の児童を養育する保護者を対象に実施した調査(「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査(就学前児童用)」)の結果です。
- ※2 「就学児童(今回調査)」のグラフデータは、平成 20 年 4 月 1 日時点で 6~11 歳(小学校 1~6 年生)の児童を養育する保護者を対象に実施した調査(「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査(就学児童用)」)の結果です。
- ※3 「前回調査」とは、平成 16 年に実施した「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」をいいます。
- ※4 「青少年保護者」のグラフデータは、小学校 5~6 年生、中学生及び高校生本人並びにその保護者を対象に実施した調査(「静岡市青少年実態調査」)の結果です。
- ※5 「母子家庭等」のグラフデータは、母子家庭、父子家庭及び寡婦を対象に実施した調査(「静岡市母子家庭及び寡婦自立促進計画策定に係るアンケート調査」)の結果です。

①子どもの人数

前回調査と比較すると、就学前児童では、「1人」の割合が減り、就学児童では「1人」の割合が増えています。また、特に就学児童では、今回調査、前回調査ともに、「2人」の割合が5割を超えています。



イ 就学児童

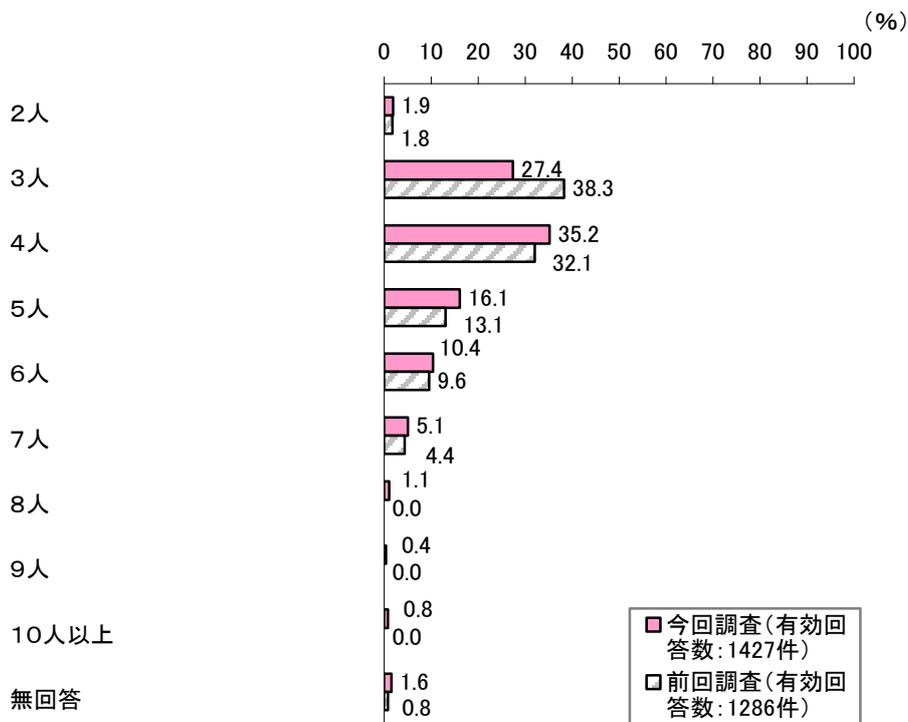


資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

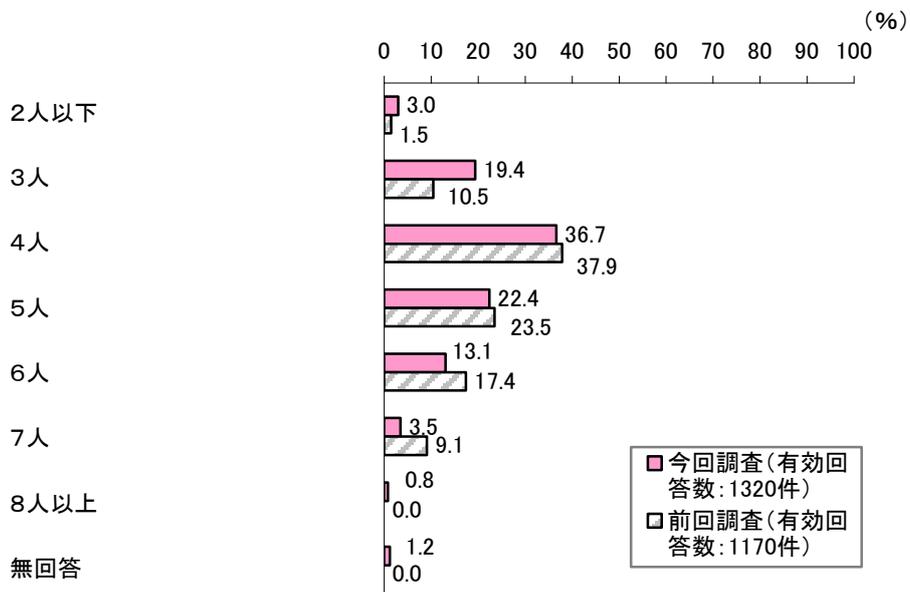
②家族の人数

前回調査と比較すると、就学前児童では、「3人」の割合が減り、就学児童では「3人」の割合が増えています。また、特に就学児童では、今回調査、前回調査ともに、「4人」の割合が約4割となっていますが、今回調査では「5人」以上の割合が減少しています。

ア 就学前児童



イ 就学児童

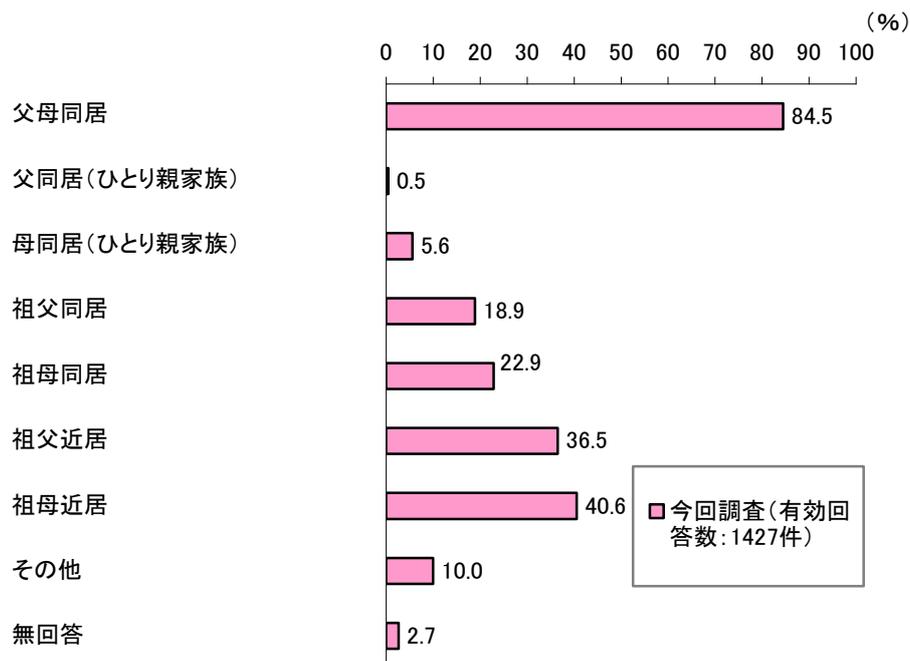


資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

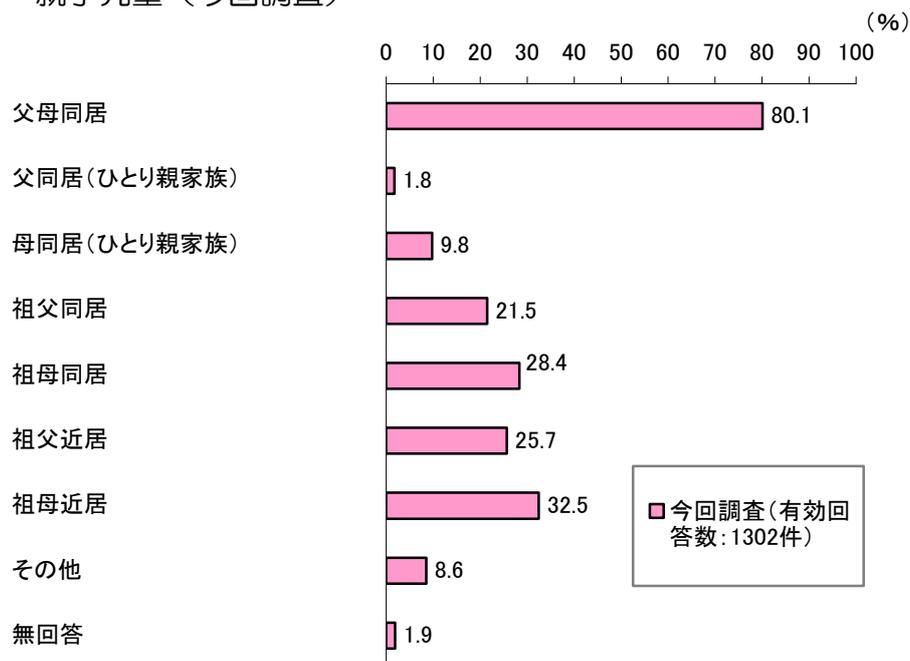
③子どもの同居状況

就学前児童・就学児童の今回調査では、いずれも、「父母同居」の割合が8割を超えています。また、「祖父母同居」が2～3割程度、「祖父母近居」が3～4割程度となっています。

ア 就学前児童（今回調査）



イ 就学児童（今回調査）

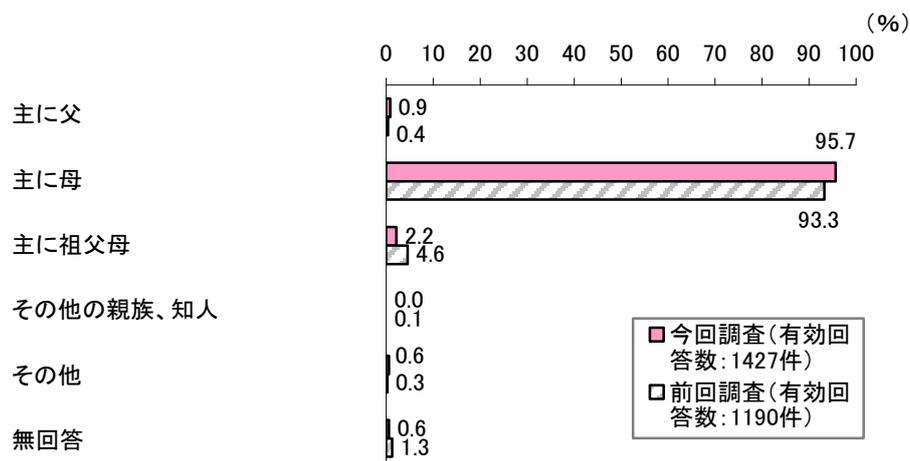


資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

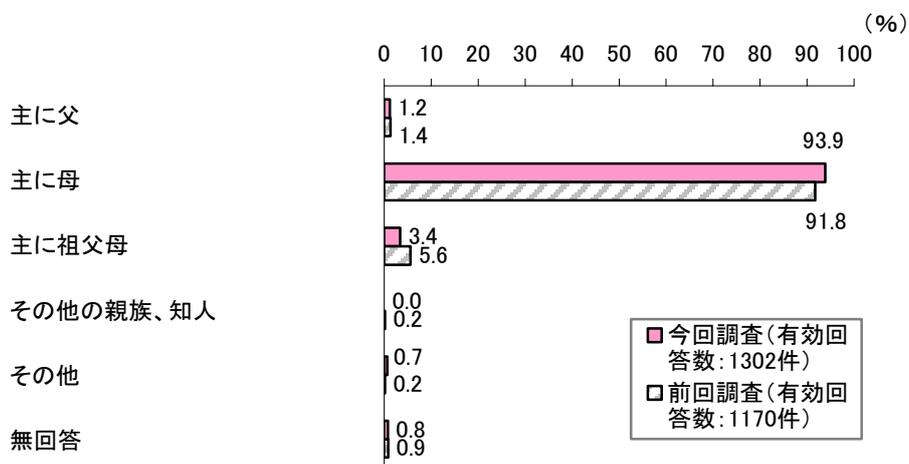
④子どもの身の回りの世話を主にしている人

就学前児童・就学児童の今回調査、前回調査ともに、「主に母親」の割合が9割を超えています。

ア 就学前児童



イ 就学児童

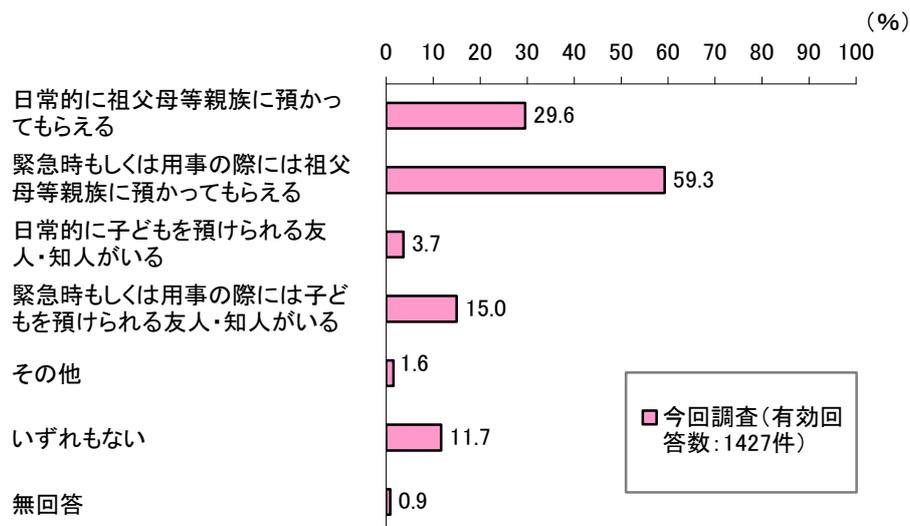


資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

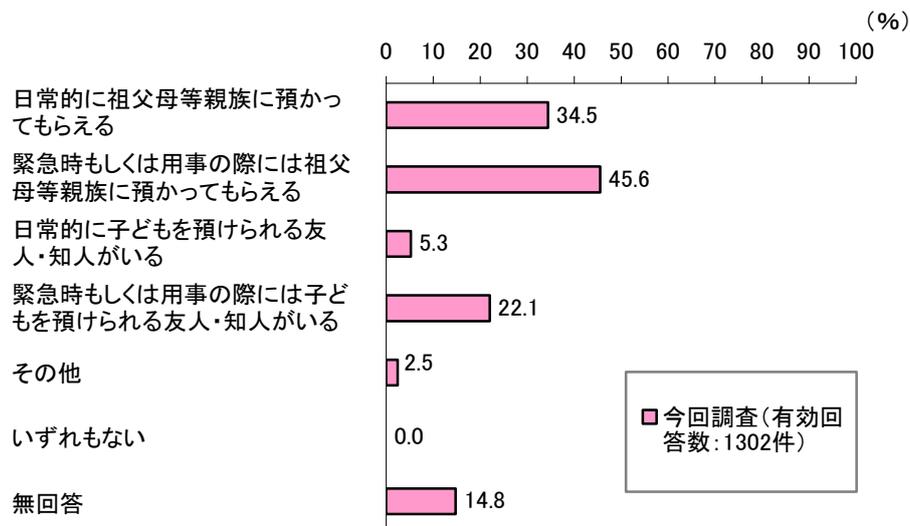
⑤子どもを預かってくれる人

日常的又は緊急時等に子どもを預かってくれる人は、就学前児童・就学児童の今回調査では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等親族に預かってもらえる」の割合が5割程度となっています。また、「日常的に祖父母等親族に預かってもらえる」は3割程度となっています。

ア 就学前児童（今回調査）



イ 就学児童（今回調査）

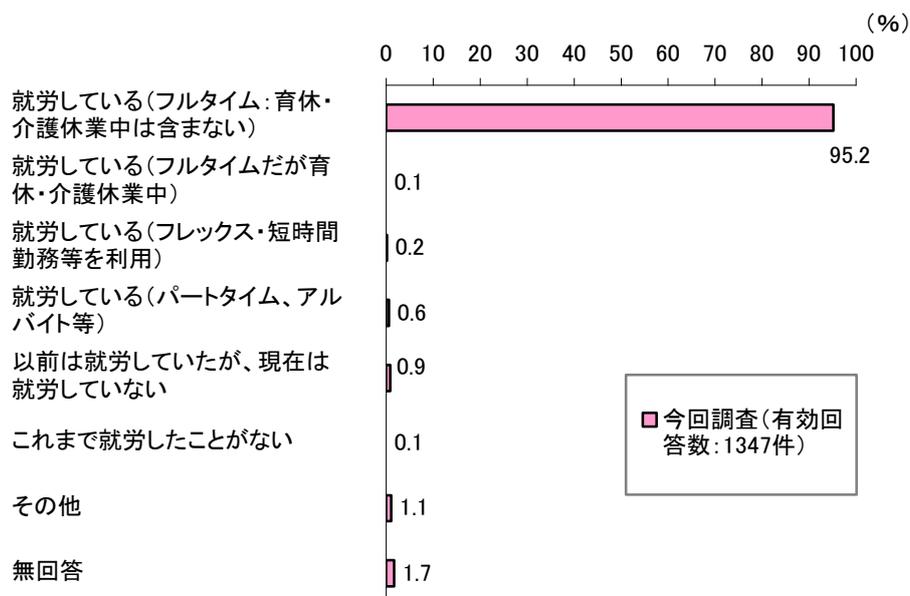


資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

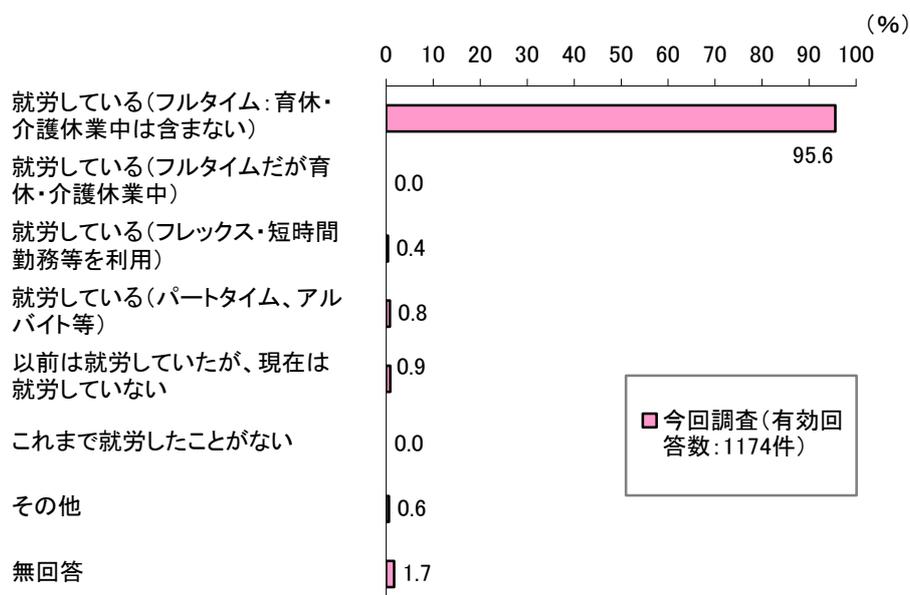
⑥父親の就労状況

就学前児童・就学児童の今回調査では、「就労している（フルタイム）」の割合が9割を超えています。

ア 就学前児童（今回調査）



イ 就学児童（今回調査）



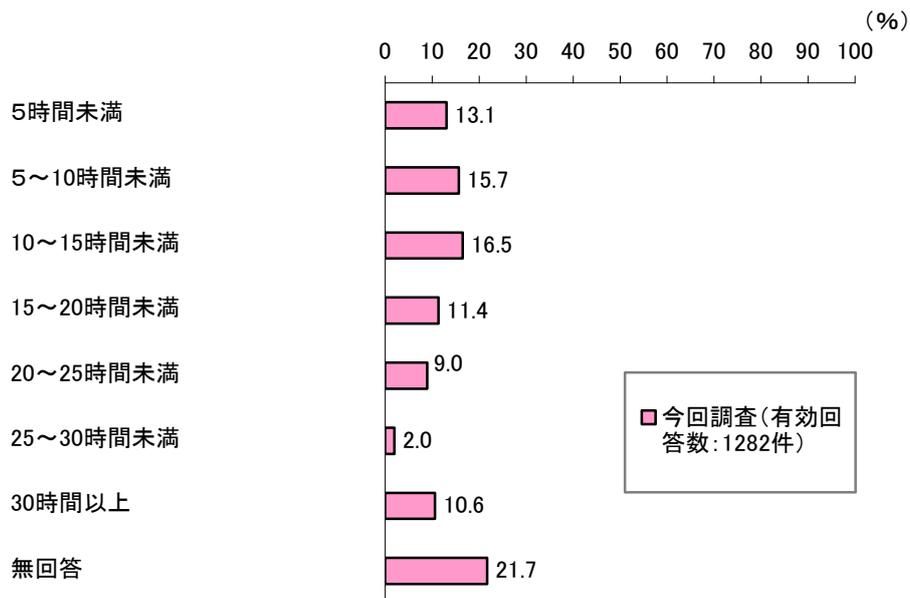
資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

⑦フルタイム就労する父親の1週あたり平均残業時間

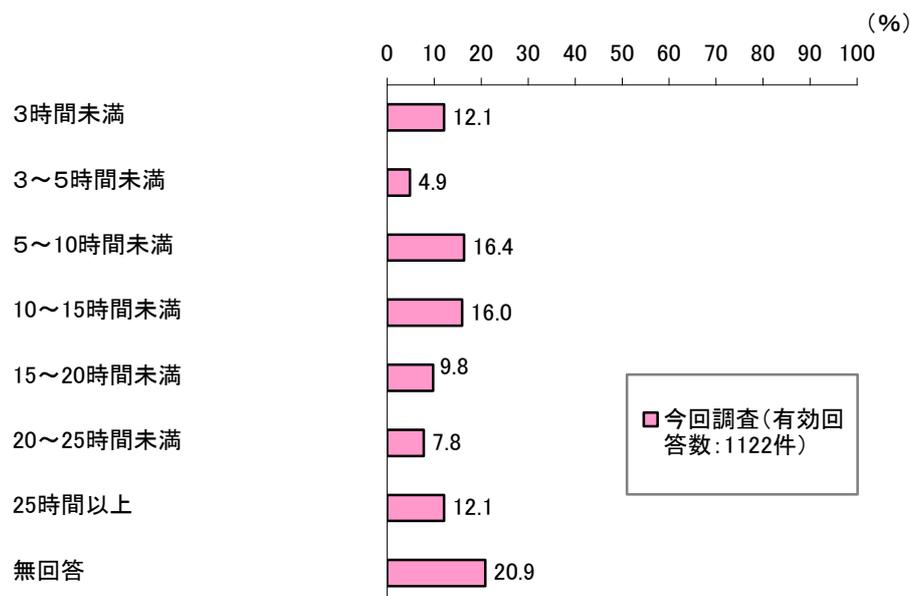
就学前児童（今回調査）では、「10～15 時間未満」の割合が最も多く、就学児童（今回調査）では「5～10 時間未満」の割合が最も多くなっています。

また、就学前児童・就学児童の今回調査では、「20 時間以上」の割合は約2割となっています。

ア 就学前児童（今回調査）



イ 就学児童（今回調査）



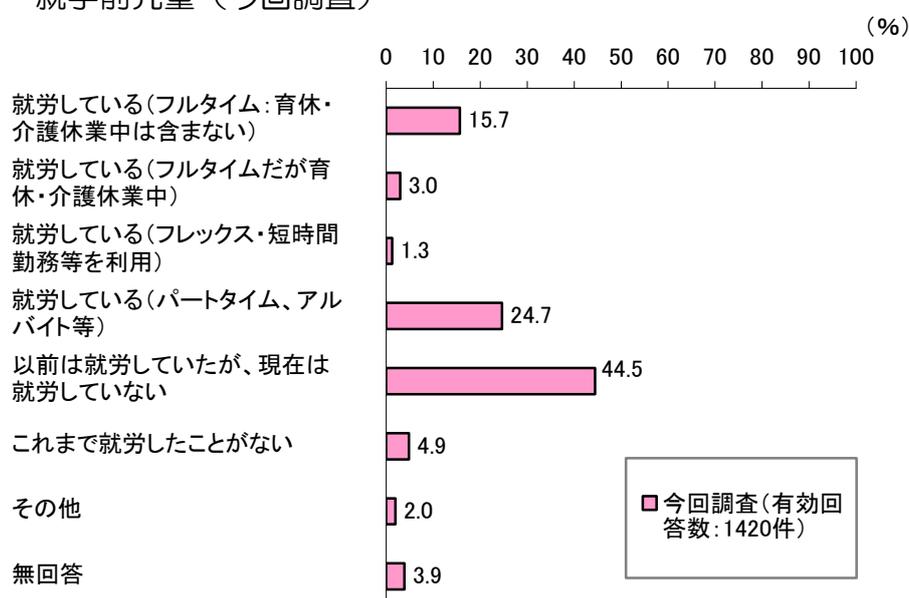
資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

⑧母親の就労状況

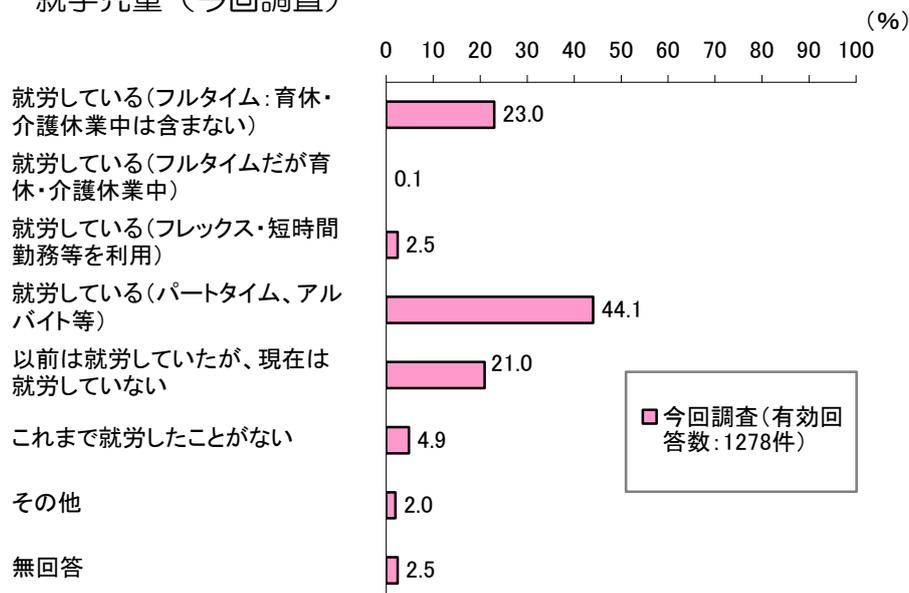
母親の「就労していない」の割合は、就学前児童（今回調査）では約5割、就学児童（今回調査）では約2割となっています。また、就学前児童・就学児童の今回調査では、「就労している（フルタイム）」の割合は、2割程度となっています。

母子家庭等では、「仕事に就いている」の割合は約9割となっています。また、雇用期間（自営業や内職を除く）は、9割以上が長期雇用であり、そのうち約5割が正職員となっています。

ア 就学前児童（今回調査）



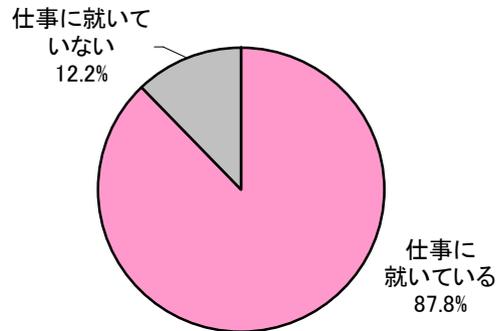
イ 就学児童（今回調査）



資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

ウ 母子家庭等（就業状況）

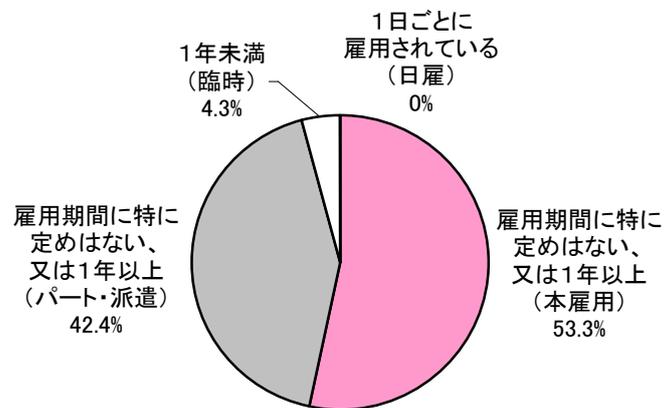
今回調査(有効回答数:540件)



資料：静岡市「静岡市母子家庭及び寡婦自立促進計画策定に係るアンケート調査」（平成 21 年）

エ 母子家庭等（就業者の雇用期間）

今回調査(有効回答数:443件)



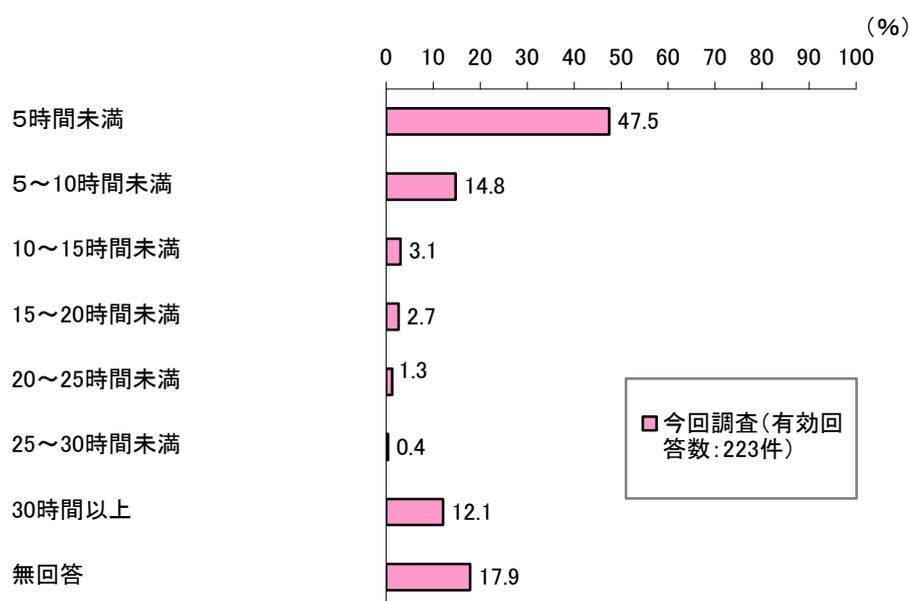
資料：静岡市「静岡市母子家庭及び寡婦自立促進計画策定に係るアンケート調査」（平成 21 年）

⑨フルタイム就労する母親の1週あたり平均残業時間

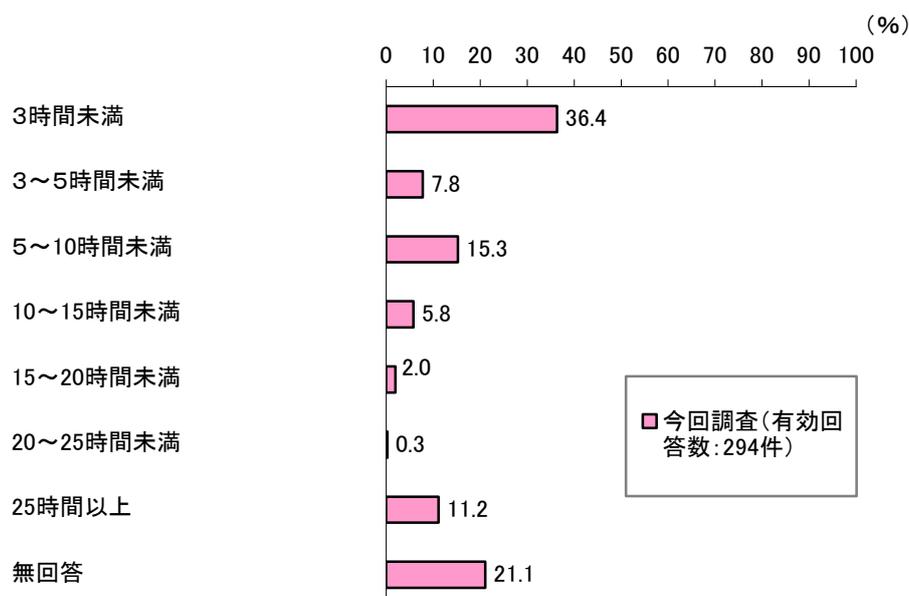
就学前児童（今回調査）では、「5時間未満」の割合が最も多く、就学児童（今回調査）では、「3時間未満」の割合が最も多くなっています。

また、就学前児童・就学児童の今回調査では、「25時間以上」の割合は1割を超えています。

ア 就学前児童（今回調査）



イ 就学児童（今回調査）

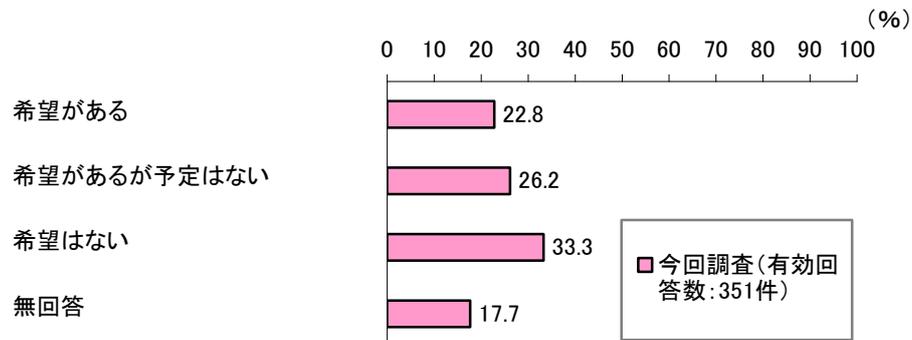


資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

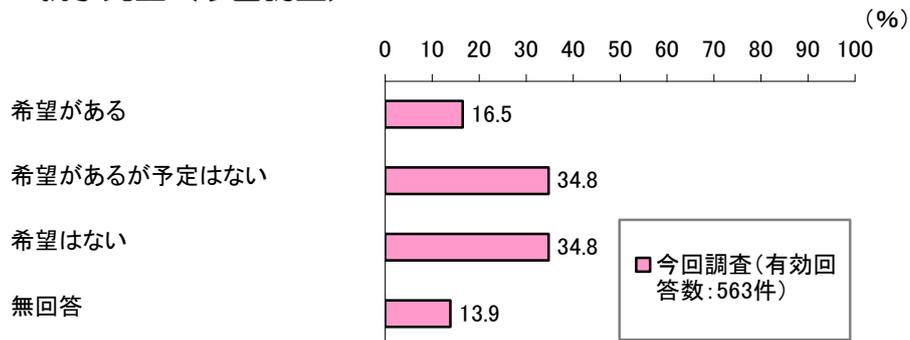
⑩パートタイム又はアルバイト就労している母親のフルタイム就労への転換希望

フルタイム就労への転換希望は、就学前児童・就学児童の今回調査では、「希望がある」の割合が約5割となっています。

ア 就学前児童（今回調査）



イ 就学児童（今回調査）



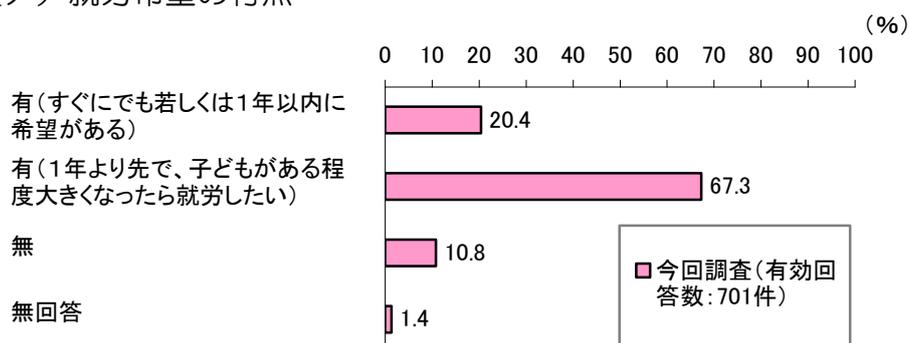
資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成 21 年）

⑪就労していない母親の就労希望

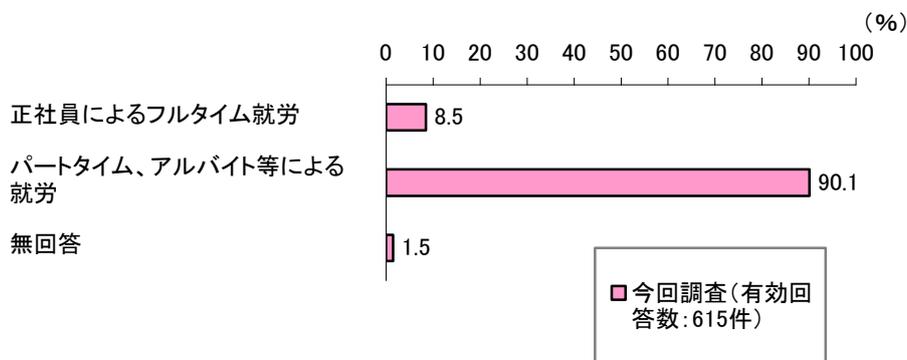
就学前児童（今回調査）では、「希望あり」の割合が約9割、就学児童（今回調査）では、約7割となっています。また、これらのうちの約9割が、パートタイム又はアルバイト等による就労を希望しています。

ア 就学前児童（今回調査）

（ア）就労希望の有無



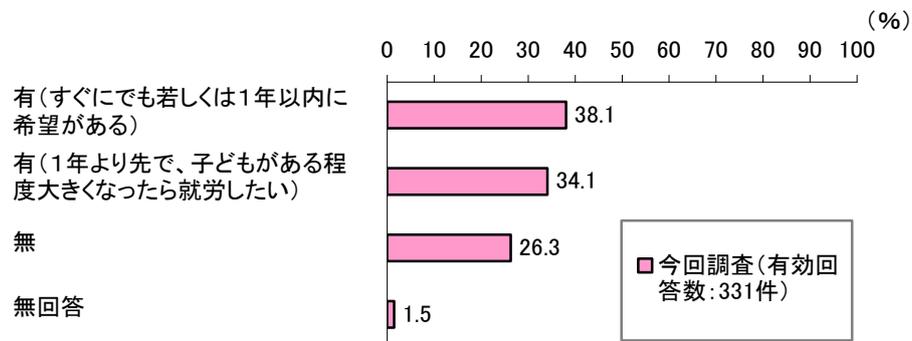
（イ）就労希望「有」の場合、希望する就労形態



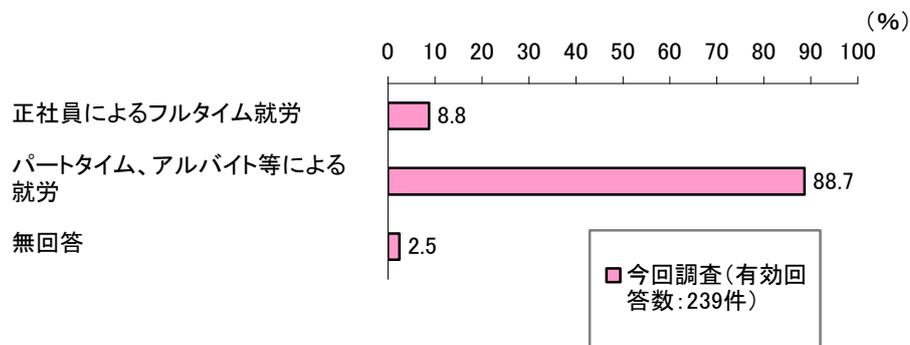
資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

イ 就学児童（今回調査）

（ア）就労希望の有無



（イ）就労希望「有」の場合、希望する就労形態

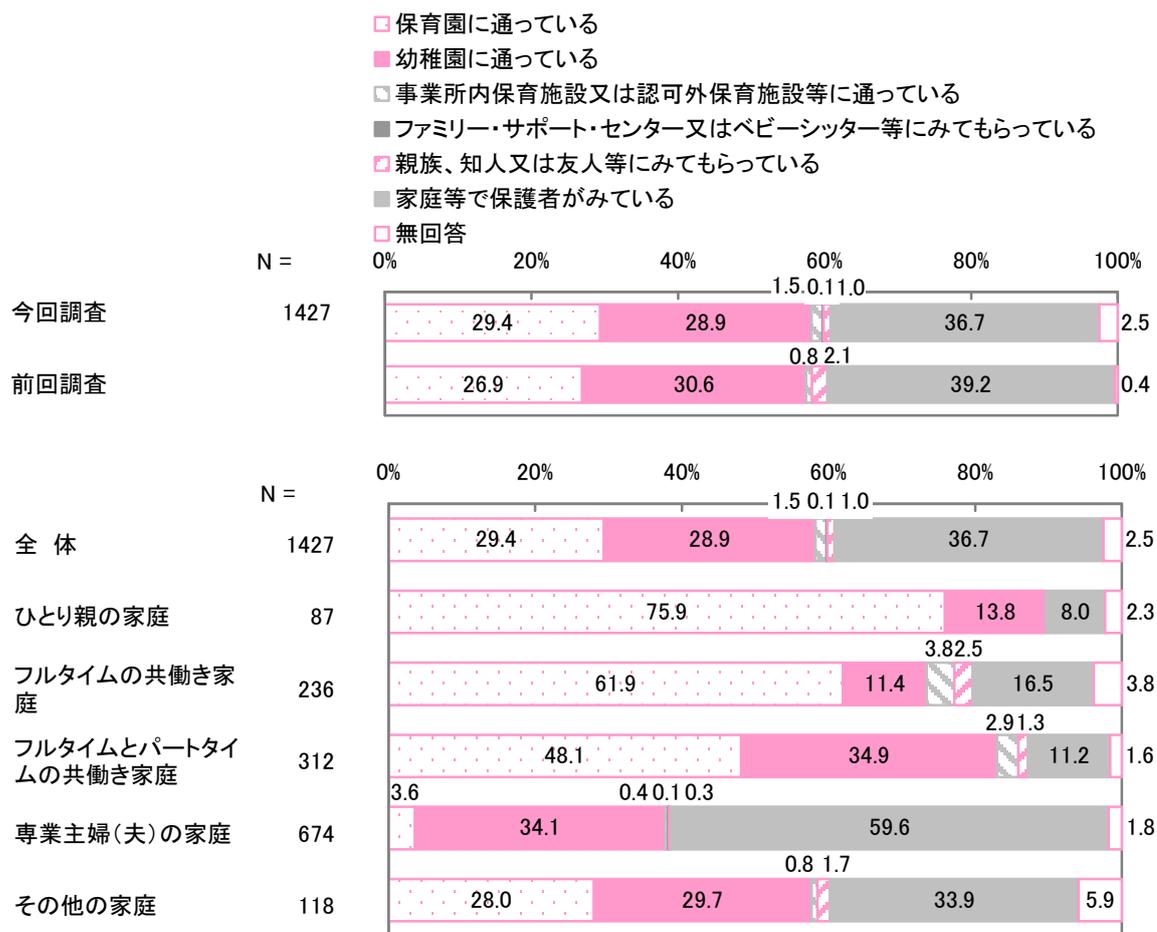


資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

⑫子どもの保育状況

就学前児童の今回調査、前回調査ともに、「保育園又は幼稚園に通っている」の割合が約6割と最も高く、次いで「家庭等で保護者がみている」の割合が約4割となっています。

《就学前児童》



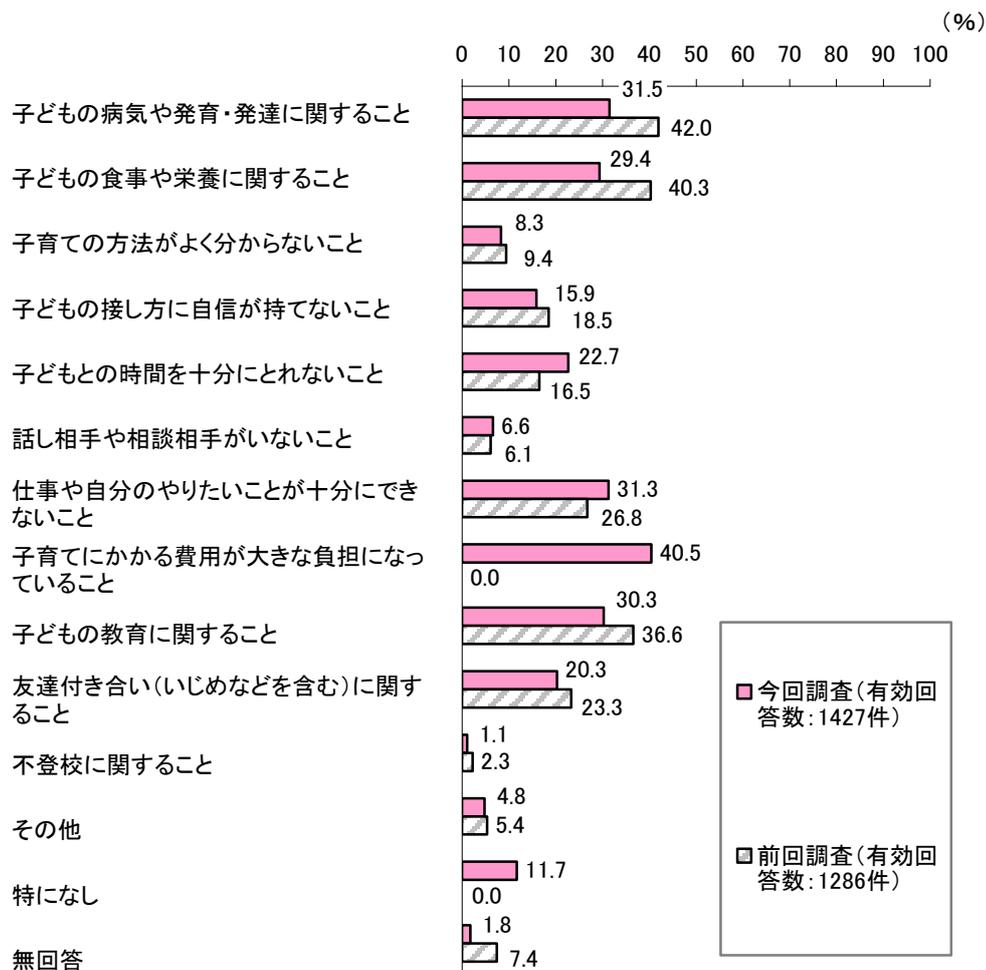
資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成21年）

⑬子育てにおける悩みや不安

就学前児童・就学児童の今回調査では、「子育てにかかる費用が大きな負担になっていること」の割合が4割を超えています。

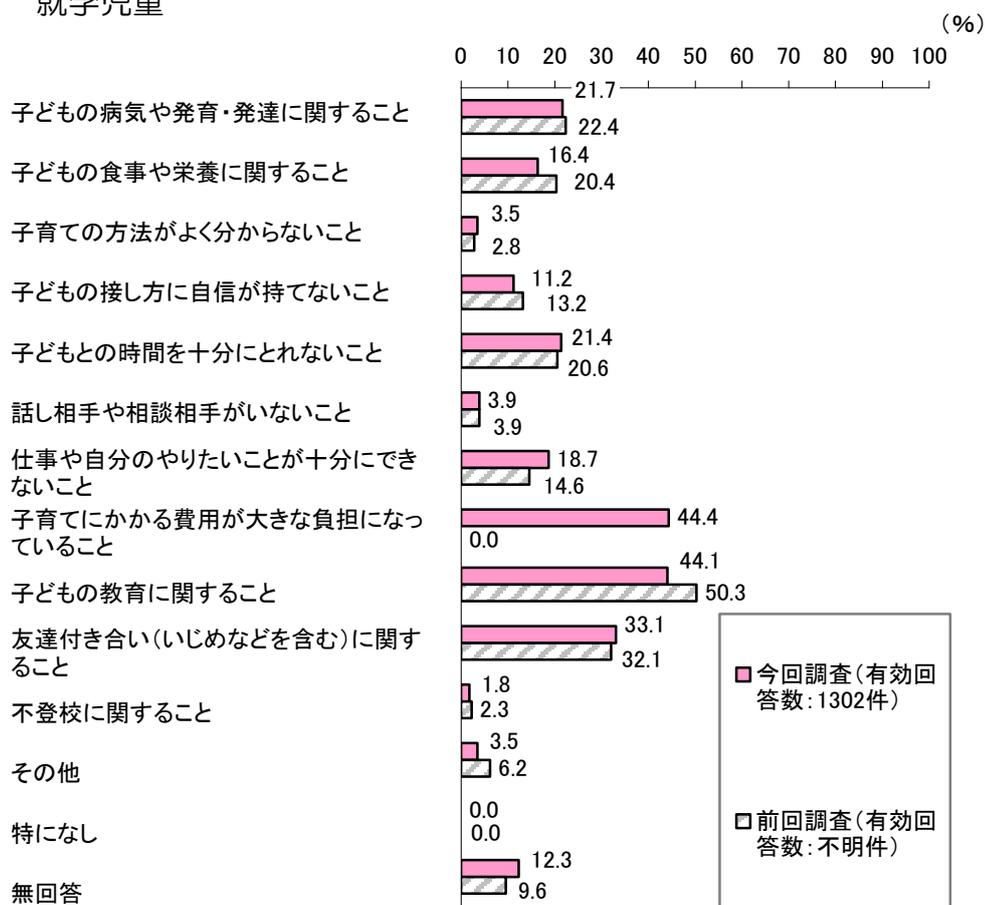
また、青少年保護者では、「子どもの勉強や進学のこと」の割合が最も多く、6割を超えています。

ア 就学前児童



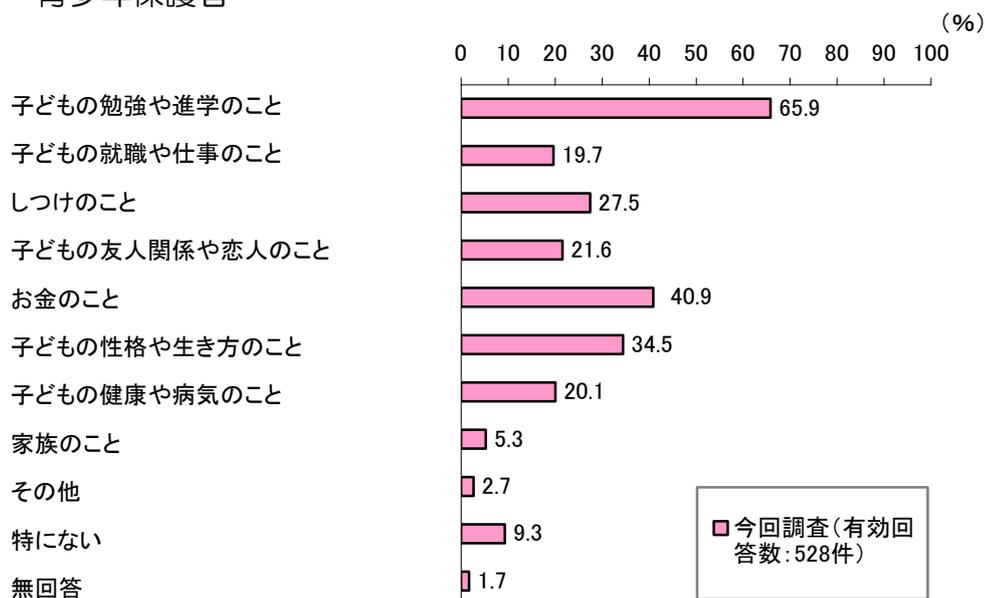
資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

イ 就学児童



資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

ウ 青少年保護者

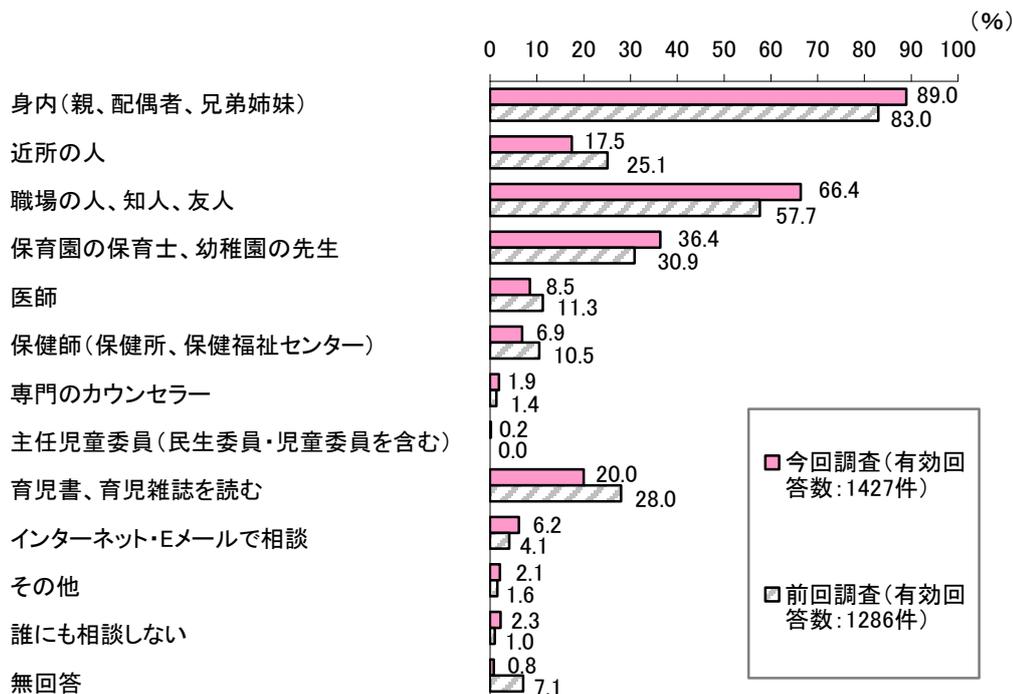


資料：静岡市「静岡市青少年実態調査」(平成21年)

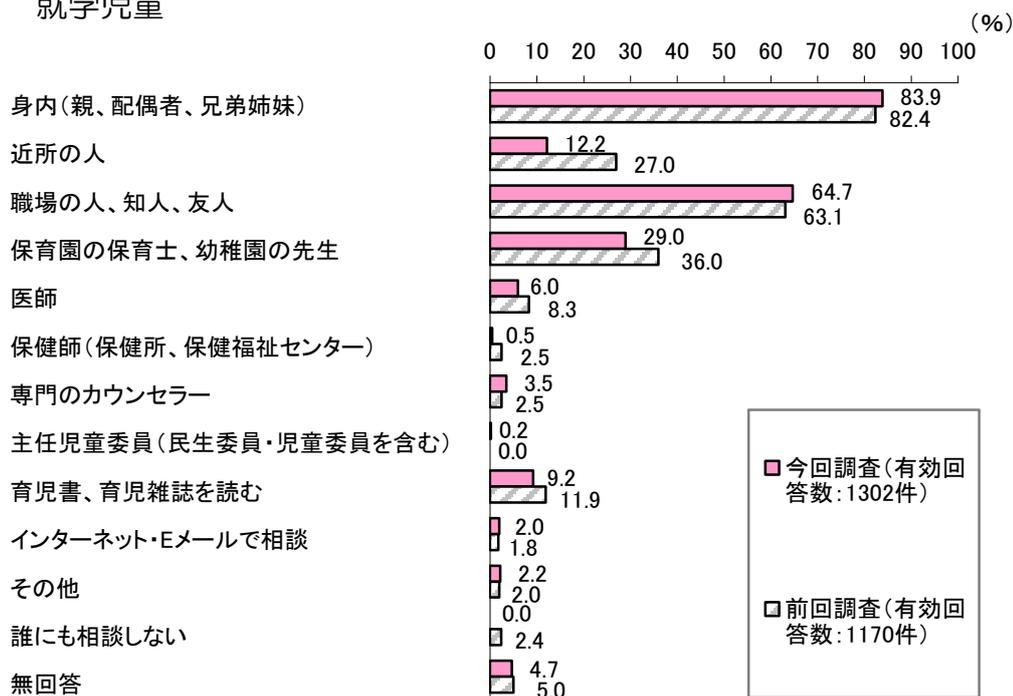
⑭子育てに関する悩みや不安の相談相手

就学前児童・就学児童の今回調査、前回調査及び青少年保護者は、いずれも、「身内（親、配偶者、兄弟姉妹）」の割合が最も高く、8割を超えており、次いで「職場の人、知人、友人」が6割を超えています。

ア 就学前児童

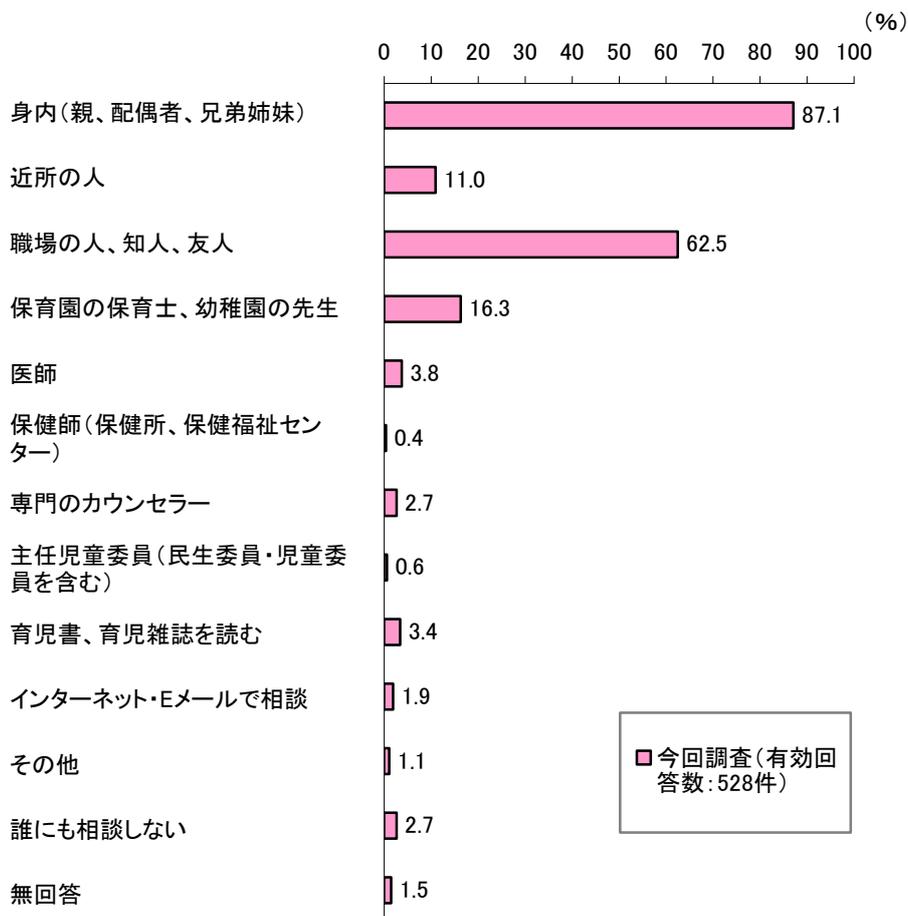


イ 就学児童



資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

ウ 青少年保護者

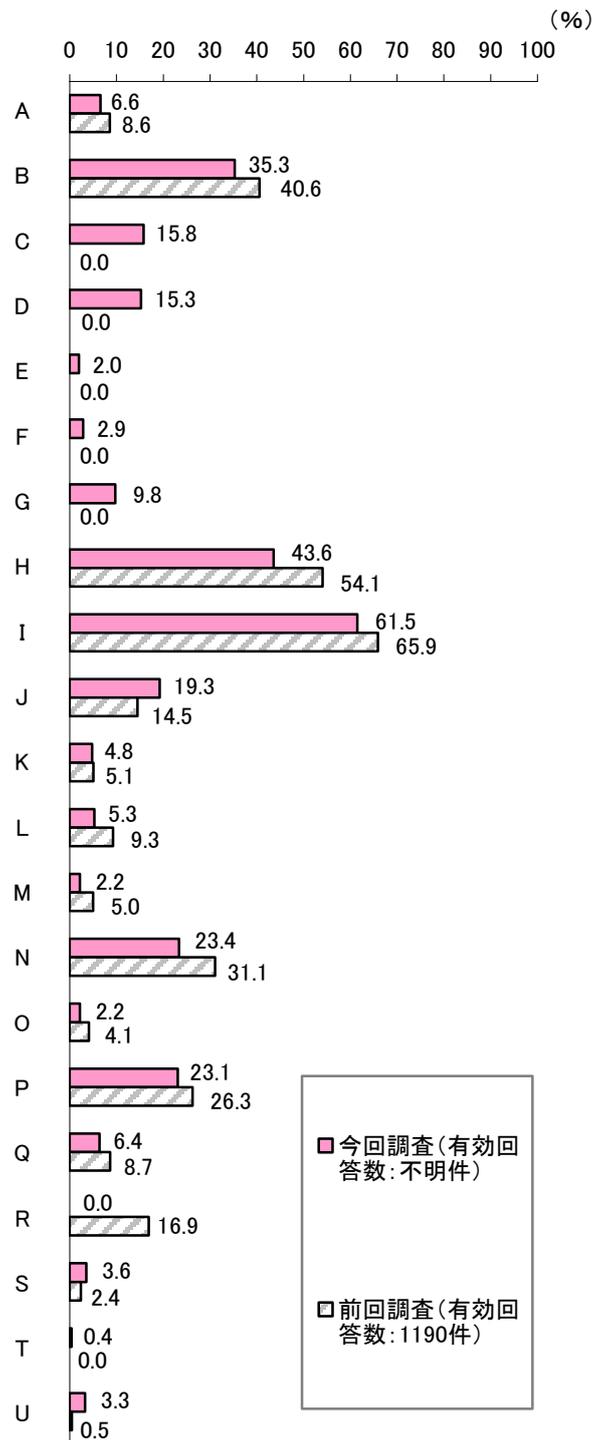


資料：静岡市「静岡市青少年実態調査」(平成21年)

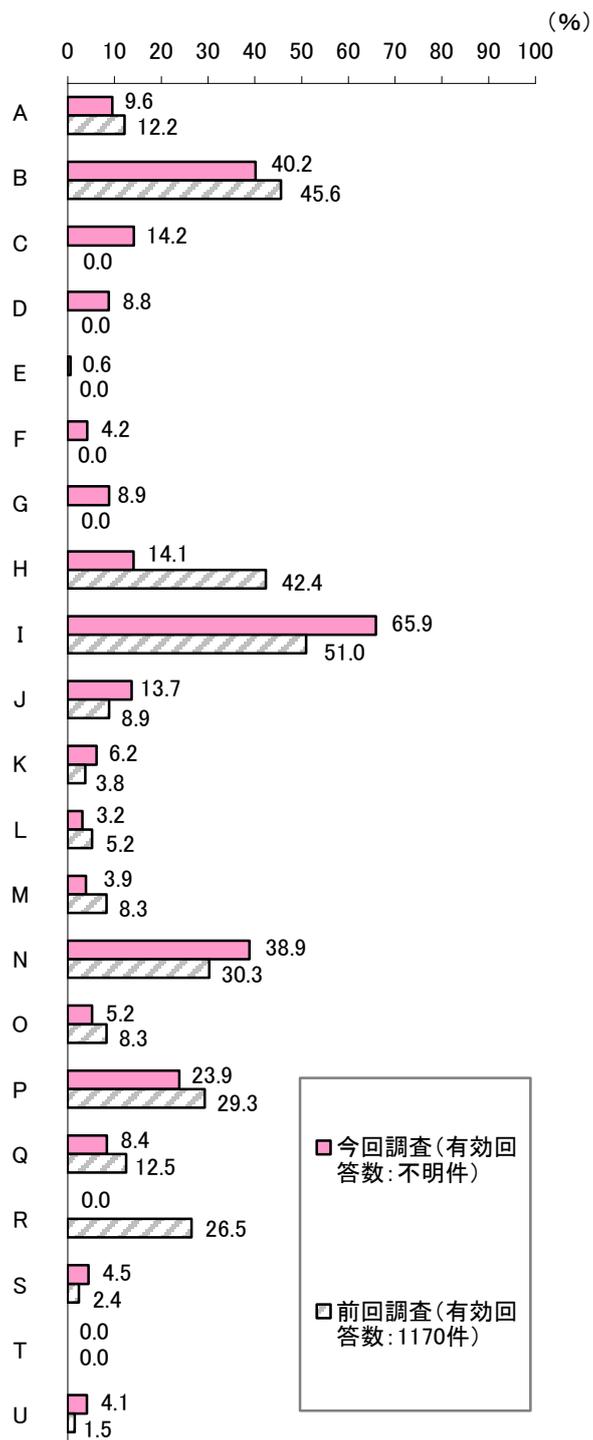
⑮効果が高い施策又は充実を図ってほしいと期待する施策

就学前児童・就学児童の今回調査、前回調査ともに、「児童手当及び子ども医療費助成の対象拡大や支給額の増額等、子育てのための経済的支援の拡充」の割合が最も高く、6割を超えています。また、「児童館や公園などの子どもの遊び場の拡充」や「安心して子どもが医療機関を受診できる体制の整備」なども高い割合となっています。

ア 就学前児童



イ 就学児童

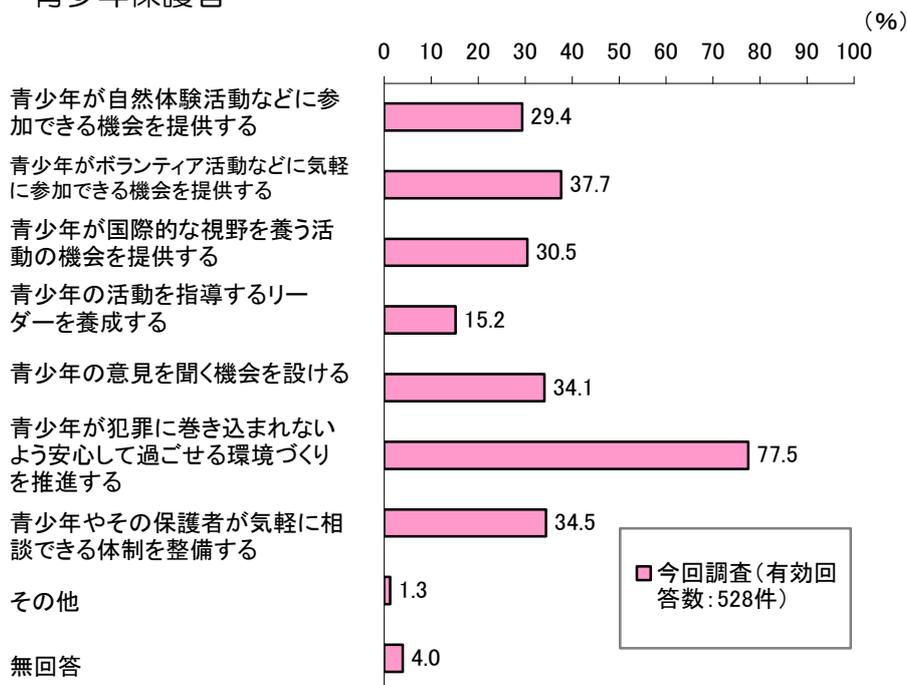


- A 子育て支援施策に関する情報提供の拡充
- B 児童館や公園などの子どもの遊び場の拡充
- C 子どもの居場所づくり対策としての放課後児童クラブの整備
- D 保育園定員数の拡充
- E 幼稚園を増やす
- F 親が子育てについて学ぶことができる講習会などの開催を増やす
- G 親子で参加できる各種イベントの開催を増やす
- H 保育園や幼稚園等の費用負担の軽減
- I 児童手当及び子ども医療費助成の対象拡大や支給額の増額等、子育てのための経済的支援の拡充
- J 出産や不妊治療に対する経済的支援の充実
- K 子育て世帯の優先入居や広い部屋の割り当て等の住宅面の配慮
- L 公共施設におけるファミリートイレの設置又はバリアフリー化などの整備
- M 行政では対応しにくいきめ細かなサービスの提供が期待できる、NPO等による保育サービス等の充実
- N 安心して子どもが医療機関を受診できる体制の整備
- O 安心して子育てができるための相談機関の充実
- P 残業の縮減や育児・介護休暇等の取得促進、短時間勤務制度、フレックスタイム制度の実施等、男性を含めた働き方の見直し
- Q 男女共同参画意識の徹底のもと、男性の家事・育児への参加を促進
- R 子どもの成長・発育に欠くことのできない自然環境の保護
- S その他
- T 特になし
- U 無回答

資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」（平成 21 年）

青少年保護者では、「青少年が犯罪に巻き込まれないよう安心して過ごせる環境づくりを推進する」の割合が最も高く、7割を超えています。次いで、「青少年がボランティア活動などに気軽に参加できる機会を提供する」などの割合が高くなっています。

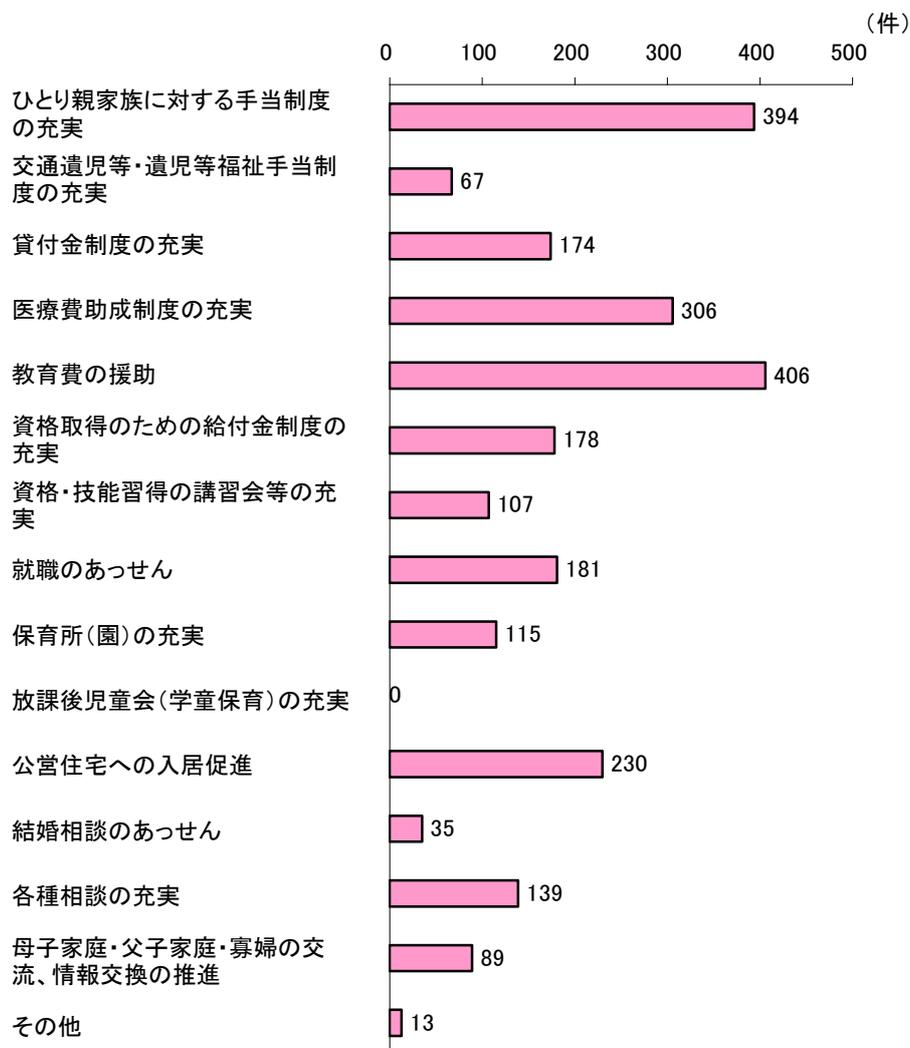
ウ 青少年保護者



資料：静岡市「静岡市青少年実態調査」（平成 21 年）

母子家庭等では、「教育費の援助」と「ひとり親家庭に対する手当制度の充実」が約 400 件と高くなっており、次いで「医療費助成制度の充実」が約 300 件となっています。

エ 母子家庭等

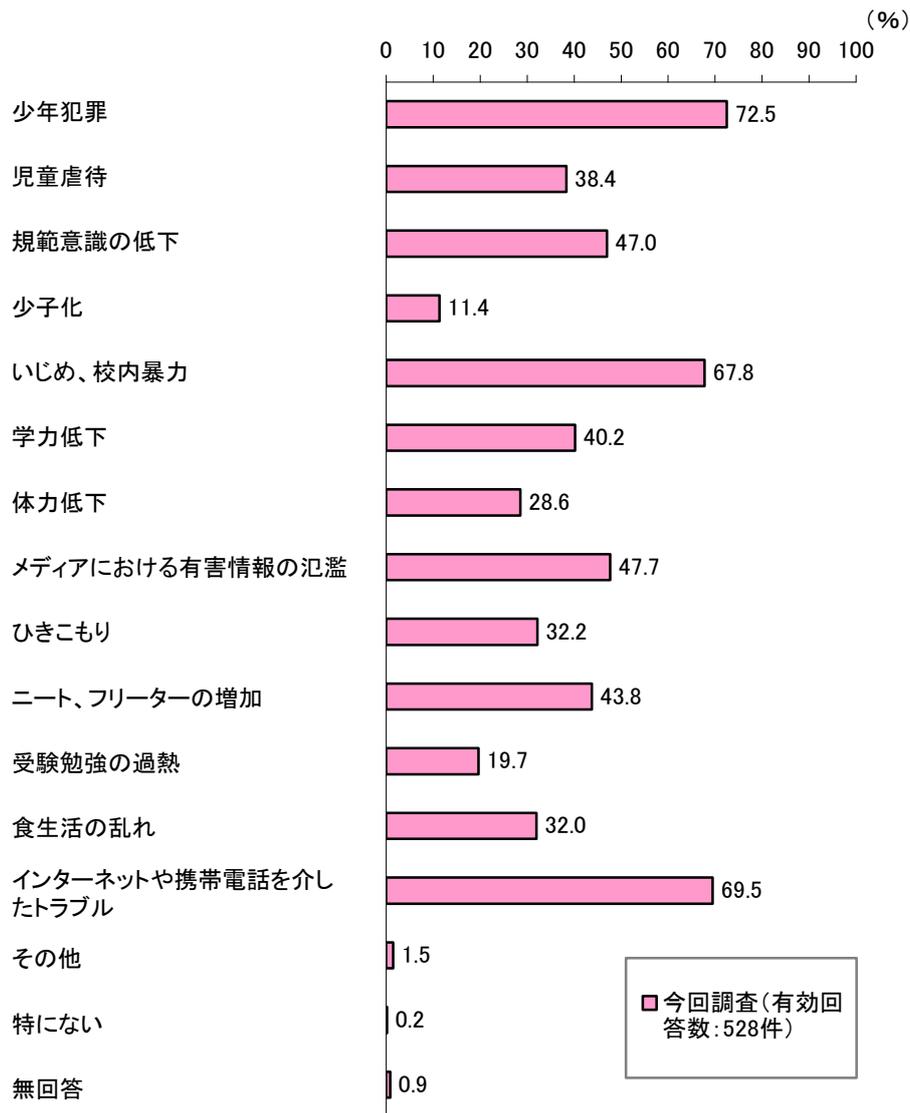


資料：静岡市「静岡市母子家庭及び寡婦自立促進計画策定に係るアンケート調査」（平成 21 年）

⑩保護者の関心事

最近の子どもを取り巻く問題で保護者が関心を持っていることは、青少年保護者では、「少年犯罪」の割合が最も多く、7割を超えています。次いで「インターネットや携帯電話を介したトラブル」や「いじめ、校内暴力」などの割合が高くなっています。

《青少年保護者》



資料：静岡市「静岡市青少年実態調査」(平成21年)

⑰ 「次世代育成支援対策に関するアンケート調査」での意見・要望

「次世代育成支援対策に関するアンケート調査」で、本市に対する子育て支援施策に関する意見や要望を自由に記入していただいた結果は次のとおりでした。

※意見・要望件数が多い6項目を、多い順に掲載しました。これ以外の意見・要望や詳細については、市ホームページ(子育て支援課)に掲載されている調査結果報告書をご覧ください。

ア 医療・健診などについて

- (ア) 医療費負担を軽減してほしい。
- (イ) インフルエンザ予防接種費用負担を軽減してほしい。
- (ウ) 産婦人科・小児科が減少しない医療環境・体制を整えてほしい。

イ 児童館や公園などの遊び場の確保について

- (ア) 子どもが放課後に、安心して楽しく遊ぶことができる場所(公園)が近所に少ないため増やしてほしい。
- (イ) 児童館の充実を図ってほしい。
- (ウ) 夏休み等の長期休暇や雨でも遊べる室内施設がほしい。

ウ 保育園(保育サービスを含む。)について

- (ア) 保育料が高いため、軽減してほしい。
- (イ) 保育園の数が少ないため、増やしてほしい。
- (ウ) 保育園の受入定員を拡充してほしい。

エ 生活支援・経済的支援(医療・教育における支援は除く。)

- (ア) 児童手当を増額してほしい。
- (イ) 子育て世帯への各種手当を充実してほしい。
- (ウ) 児童手当支給の対象年齢を延長してほしい。

オ 放課後児童クラブについて

- (ア) 放課後児童クラブの箇所や定員を充実し、待機児童を解消してほしい。
- (イ) 放課後児童クラブの入会対象者を小学校6年生までに引き上げてほしい。
- (ウ) 放課後児童クラブの利用時間を延長してほしい。

カ 学校教育について

- (ア) 小中学校とも、30人学級としてほしい。
- (イ) 教育に係る費用負担を軽減してほしい。
- (ウ) 教員の質の向上に努めてほしい。

資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

⑱ 「母子家庭等」調査での意見・要望

「母子家庭及び寡婦自立促進計画策定に係るアンケート調査」で、本市に対する意見や要望を自由に記入していただいた結果は次のとおりです。

※意見・要望件数が多かった項目を、主なものについて多い順に掲載しました。これ以外の意見・要望や詳細については、市ホームページ（子育て支援課）に掲載されている調査結果報告書をご覧ください。

ア 児童扶養手当について

- (ア) 本人の収入が少し増えると減額されるのは見直してほしい。
- (イ) 世帯の収入で支給停止となってしまうのは困る。

イ 母子医療について

- (ア) 家族と同居しているため、手当や医療費が利用できない。援助を受けている人と受けていない人がいて不平等。
- (イ) 収入が増加したり、同居家族の収入により受けられなくなってしまう。

ウ 制度全般について

- (ア) 各種手続を仕事を休まずにできるようにしてほしい。
- (イ) 父子家庭に対する手当などの制度を充実してほしい。

エ その他

- (ア) 生活のためにフルタイムで働きたいが、子どもを残して行くわけにはいかない。
- (イ) 公営住宅の入居に、母子家庭を優先してほしい。

資料：静岡市「静岡市母子家庭及び寡婦自立促進計画策定に係るアンケート調査」（平成 21 年）

(2) 次世代育成支援懇談会での意見・要望

平成 19～20 年度に、保育園や地域子育て支援センター、児童館などにおいて、子育て中の保護者に対し、子育ての現状や必要な施策などについて聞き取り調査を実施した結果は、次のとおりでした。

※主なものを3項目を掲載しました。これ以外の意見・要望や実施概要等については、市ホームページ（子育て支援課）に掲載されている実施報告書をご覧ください。

①保育園での懇談会結果（平成 19 年度）

ア 子育てに関する情報提供について

- (ア) 子育てハンドブックには多くの事業が掲載されているが、知らない事業が多い。
- (イ) 制度や事業名が難しい。
- (ウ) 市ホームページをもっと見やすく、親しみやすくしてほしい。

イ 子育て支援事業の拡充・連携について

- (ア) 保育園の延長保育は 19 時まで、放課後児童クラブは 18 時まで、と終了時間をそろえてほしい。
- (イ) 小学校生活を円滑に始められるよう、保育園から小学校への情報提供があってもよい。
- (ウ) 核家族で共働きなので、病気になったときに困る。

ウ 家庭・企業の意識改革について

- (ア) 急な病気のお迎えが一番困る。
- (イ) 企業の意識啓発が必要。女性だけが子育てするのではなく、男性も子育てしやすい環境になってほしい。
- (ウ) 夫の助けがないと子育ては大変。働き方の見直しに取り組んでいる企業もあるが、中小企業は難しいので働きかけてほしい。

資料：静岡市「平成 19 年度次世代育成支援懇談会実施報告書」（平成 20 年）

②地域子育て支援センター及び児童館などでの懇談会結果（平成 20 年度）

ア 医療費助成などについて

- （ア）子ども医療費助成制度（通院）の対象を小学校卒業までにしてほしい。
- （イ）インフルエンザ予防接種の無料化。
- （ウ）インフルエンザ予防接種の集団実施。

イ 医療体制の充実について

- （ア）夜間・休日など緊急時の当番医が分からない。
- （イ）もっと小児科を増やしてほしい。
- （ウ）産婦人科が少ないため、増やしてほしい。

ウ 子どもの居場所・遊び場の確保について

- （ア）公園が少ない。また、管理を徹底してほしい。
- （イ）児童館を増やしてほしい。また、児童館でのイベントをもっと増やしてほしい。
- （ウ）放課後児童クラブの入会は3年生までが原則であるが、4～6年生でも預かってほしい。

資料：静岡市「平成 20 年度次世代育成支援懇談会実施報告書」（平成 21 年）

(3) 市民ワークショップ

平成 21 年度に実施した市民ワークショップにおいての意見は、次のとおりでした。

① 「遊びと子育て」に関する市民ワークショップ

平成 21 年 8 月 9 日（日）に実施したワークショップにおいて、「～子どもがのびのび遊ぶためにはどうしたらいいだろうか～そのアイデアを書き出そう！」をテーマに、市民が意見やアイデアを出し合いました。様々な意見が出されましたが、参加者全員による投票結果は、次のとおりでした。

※投票数の多い順に掲載しました。詳細については、分権・広域政策課で実施報告書を閲覧できます。

- ア 地域交流会を大人・子どもぐるみで継続
- イ 既存施設の有効利用
- ウ 学校から始める遊び場づくり（機会の提供・ネットワークづくり）
- エ 10 代の男の子が思い切り遊べる場所をつくる（3on3、スケボーなど）
- オ 遊びの“知恵”をつけよう
- カ 親の働く時間を減らす（親と接する時間を増やす）

資料：静岡市「市民公開講座「遊びと子育て」に関する市民ワークショップ実施報告書」（平成 21 年）

② 「Voice of しずおか市民討議会 2009」

平成 21 年 8 月 29（土）～30 日（日）に実施したワークショップにおいて、「安心して子育て子育てできるまちづくり」をテーマに、「今の子どもたちに必要なこと、あったらうれしいと思うこと」について、市民が意見やアイデアを出し合いました。様々な意見が出されましたが、参加者全員の投票結果は、次のとおりでした。

※投票数の多い順に掲載しました。詳細については、分権・広域政策課又は子育て支援課で実施報告書を閲覧できます。

- ア のびのび安心できる、遊べる場所（時間）
- イ 親の学びの場づくり
- ウ 経済力に関係なく教育を受けられる
- エ 子育ては親・学校・地域の協力が必要
- オ 自立した大人になって欲しい
- カ 成長するヒントを与えてくれる仲間や大人
- キ 豊かな人間性を育む家族、地域とのつながり

資料：Voice of しずおか市民討議会 2009 実行委員会「Voice of しずおか市民討議会 2009 実施報告書」（平成 21 年）

(4) 意見交換会（タウンミーティング）

平成 21 年 11 月 14 日から 12 月 19 日の間に全 5 回実施し、市民 147 人が参加し、67 件の意見・要望が出されました。

多かった意見・要望としては、保育園の運営・整備（10 件）、放課後児童クラブの運営・整備（9 件）、児童館の運営・整備（5 件）及び公園整備（4 件）でした。

本市への制度に対する主な要望については、次のとおりです。

※これ以外の意見・要望については、市ホームページ（子育て支援課）に掲載されている実施結果報告書をご覧ください。

【保育士等の就労環境】

○保育士や放課後児童クラブ指導員など、働く側の就労環境を改善してほしい。

【保育士等のスキルアップ】

○保育士や放課後児童クラブ指導員は研修の機会の場合が少ないので、保育士等のスキルアップに努めてほしい。

【放課後児童クラブ】

○放課後児童クラブの利用料は、保育料と同様、所得段階別の設定が望ましい。

○放課後児童クラブは、待機児童を減らすことばかりでなく、質的な面での充実も併せて実施してほしい。

【児童館・公園整備】

○清水区には、児童館がなく公園が少ない。

○子どもの遊びを通じたの健全育成はとても大事。子どもの遊び場の確保はぜひ推進してほしい。

【高校生への施策】

○高校生に対する施策が低年齢児と比較すると少なく思われる。

【病児・病後児保育】

○病児・病後児保育事業をもっと整備してほしい。

資料：静岡市「(仮称) 静岡市子どもプラン（素案）に係るタウンミーティング及びパブリックコメント実施結果報告」（平成 22 年）

(5) 市民意見提出手続（パブリックコメント）

平成21年11月16日から12月22日の間において実施し、市民12人から22件の意見・要望が出されました。

多かった意見・要望としては、計画の基本理念などへの意見（10件）、学校司書配置（3件）及び子ども医療費助成制度（2件）でした。

本市への制度に対する主な要望については、次のとおりです。

※これ以外の意見・要望については、市ホームページ（子育て支援課）に掲載されている実施結果報告書をご覧ください。

【学校司書】

○学校司書の配置については今後も推進して全校配置し、雇用止めの廃止や司書資格者の採用、勤務日数及び時間延長などの待遇改善に努めてほしい。

【子ども医療費助成】

○子ども医療費助成制度は、小中学生にもぜひ拡大してほしいが、安易なコンビニ受診等も増えることが考えられるため、保護者一人ひとりの意識レベルを引き上げるような施策を併せて推進してほしい。

○子ども医療費助成制度の受給対象者は、小学校入学前の3月31日までとなっていて、3月生まれと4月生まれの子どもでは受給期間に約1年の差がでる。学年でなく、年齢でくぎらないと不平等であるため、改善してほしい。

【携帯電話一斉メール】

○保育園や幼稚園においても、災害時等に対応する保護者への携帯電話での一斉メール送信を実施してほしい。

【公園整備】

○公園の石畳や階段が、ベビーカーや車いすを押すのに大変なため、整備する際に留意してほしい。

【学校給食】

○食物アレルギーの対応除去食の提供施設を増やしてほしい。

資料：静岡市「(仮称)静岡市子どもプラン(素案)に係るタウンミーティング及びパブリックコメント実施結果報告」(平成22年)

3 現状分析のまとめ及び基本的な課題

(1) 現状分析のまとめ

本章の「1 少子化の現状」や「2 子育ての現状」により、現状分析として、次のとおりの内容にまとめました。

①子どもの減少

総人口の減少ペース以上に、年少人口の減少は進行しています。現在、婚姻件数は横ばいですが、出生数は減少傾向にあります。また、全国平均に比べ、男女とも平均初婚年齢が高い状況です。

このようなことから、今後も子どもの数は減少していくものと考えられます。

②核家族化の進行

前回調査と比較すると、3～4人世帯が増えており、6人以上世帯が減少しています。

このようなことから、核家族化が進行していることがうかがえます。

③保護者と子どもの接する時間が短い

現在パートタイム就労している母親の約5割は、今後フルタイム就労を希望しています。また、現在フルタイム就労している母親の約1割は週25時間以上、父親の約2割が週20時間以上の残業をしている状況です。

このようなことから、保護者の就労時間が長く、平日に子どもと接する時間が短いことがうかがえます。

④幼児の保育は「保育園」又は「幼稚園」が主

就学前児童を持つ子育て家庭は、保育園や幼稚園に子どもを預けることが多く、また、保育園に預けていない0～2歳児は、自宅で保護者が養育している状況にあることがうかがえます。一方、認可外保育施設やファミリー・サポート・センターなどでの保育はごくわずかとなっています。

このようなことから、保育園や幼稚園での保育が主であり、認可外保育施設やファミリー・サポート・センターなどでの保育は、一時的・補完的な役割を担っていると考えられます。

⑤子育てにかかる費用負担が大きい

子育てにおける悩みや不安について、約4割が、「子育てにかかる費用が大きな負担となっている」をあげており、子育て支援として効果が高いと思う施策又は充実を期待する施策についても、約6割が、「子育てのための経済的支援」を求めています。

このようなことから、子育て家庭にとって、子育てにかかる費用負担の重いことがうかがえます。

⑥地域の子育て相談機関が活用されていない

子育てにおける悩みや不安に対する相談相手は、身内（親、配偶者又は兄弟姉妹など）が最も多く、次に職場の人や知人、友人です。それに対して、地域で身近な存在である主任児童委員や保健福祉センターの保健師などへの相談は少ない状況です。

このようなことから、保護者が身近な相談機関を気軽に利用できるような仕組みづくりや啓発・周知活動を行う必要があると考えられます。

（2）前期計画の評価

① 内部評価

ア 前期実施計画の目標達成状況（平成21年度見込）

前期計画に登載されている施策や事務事業は、平成22年3月31日見込で、211事業でした。これらの事業について、平成21年度における目標達成状況を評価した結果、概ねすべての事業が、計画目標に対して8割以上を達成しており、計画どおり事業が実施されたと言えます。（下表参照）

表：静岡市子どもプラン（前期計画）目標達成状況（平成22年3月31日見込）

目標に対する評価	平成21年度目標達成基準	事業数	割合（％）
A	計画目標に対し、現時点で8割以上達成している	208	98.6
B	計画目標に対し、現時点で5割以上8割未満達成している	1	0.5
C	計画目標に対し、現時点で2割以上5割未満達成している	2	0.9
D	計画目標に対し、現時点で2割未満達成している	0	0.0
合計		211	100

資料：静岡市「静岡市子どもプラン進捗状況一覧表」（平成22年）

イ 前期計画の中で主に取り組んできた内容

「静岡市マニフェスト2007」に掲げられた100施策のうち、子育て支援に関連する7施策の実施状況は、次のとおりでした。

(ア) 学校応援団の設立

家庭や地域の教育力を再生させ高める必要があるため、地域のPTA、市民及び団体等学校を取り巻く様々な人々で構成する学校応援団を平成22年度までに13小学校区で設立する目標に対して、次のとおり実施しました。

(平成19年度末設立数) 3校

(平成20年度末設立数) 13校

(イ) コミュニティNPOの増設(子育てトーク事業の充実)

団塊の世代等のまちづくり参加を促進し、コミュニティを機縁とするNPOが平成22年度までに50団体以上増えるよう、市民や団体に働きかける目標に対して、次のとおり実施しました。

(平成19年度末実施状況) 28地区 45事業

(平成20年度末実施状況) 27地区 46事業

(ウ) 放課後児童クラブの拡充

小学校3年生までの待機児童をゼロにすることや未設置学区を解消することを目標に、平成20年度までに42クラブを設置する目標に対して、次のとおり実施しました。

(平成18年度) 16クラブ整備(新設4クラブ、拡張12クラブ)

※H19.5.1時点の待機児童数 183人

(平成19年度) 16クラブ整備(拡張16クラブ)

※H20.5.1時点の待機児童数 128人

(平成20年度) 11クラブ整備(新設3クラブ、拡張8クラブ)

※H21.5.1時点の待機児童数 63人

(エ) 保育園待機者の解消

保育園入園希望の待機者が多い駿河区に、民間による保育園が平成20年度までに開設されるよう助成する目標に対して、次のとおり実施しました。

(平成19年度) なかはら保育園(H19工事着工、H20.4開園)

(平成20年度) ほのぼの保育園(H20工事着工、H21.4開園)

(オ) ファミリー・サポート・センター会員数の増加

子育てを支援するボランティアであるファミリーサポートの会員数を、平成 22 年度までに 3,300 人に増やす目標に対して、次のとおり実施しました。

(平成 19 年度末会員数) 会員数 2,921 人

(平成 20 年度末会員数) 会員数 3,144 人

(カ) 子育て優待カードの導入

18 歳未満の子どもを持つ世帯や妊婦がいる世帯が、商品や施設入場料の割引特典を受けられる「子育て優待カード」を、民間との連携により導入する目標に対して、次のとおり実施しました。

(平成 19 年度) H19.5 使用開始

(カード配付数約 110,000 枚、市内協賛店舗数 353 店舗)

(キ) 児童相談所・一時保護所の新設

市役所内にある児童相談所と県に委託している一時保護所を一体化させ、葵区内に新設する目標に対して、次のとおり実施しました。

(平成 19 年度) H19.7 工事着工

(平成 20 年度) H20.4 供用開始

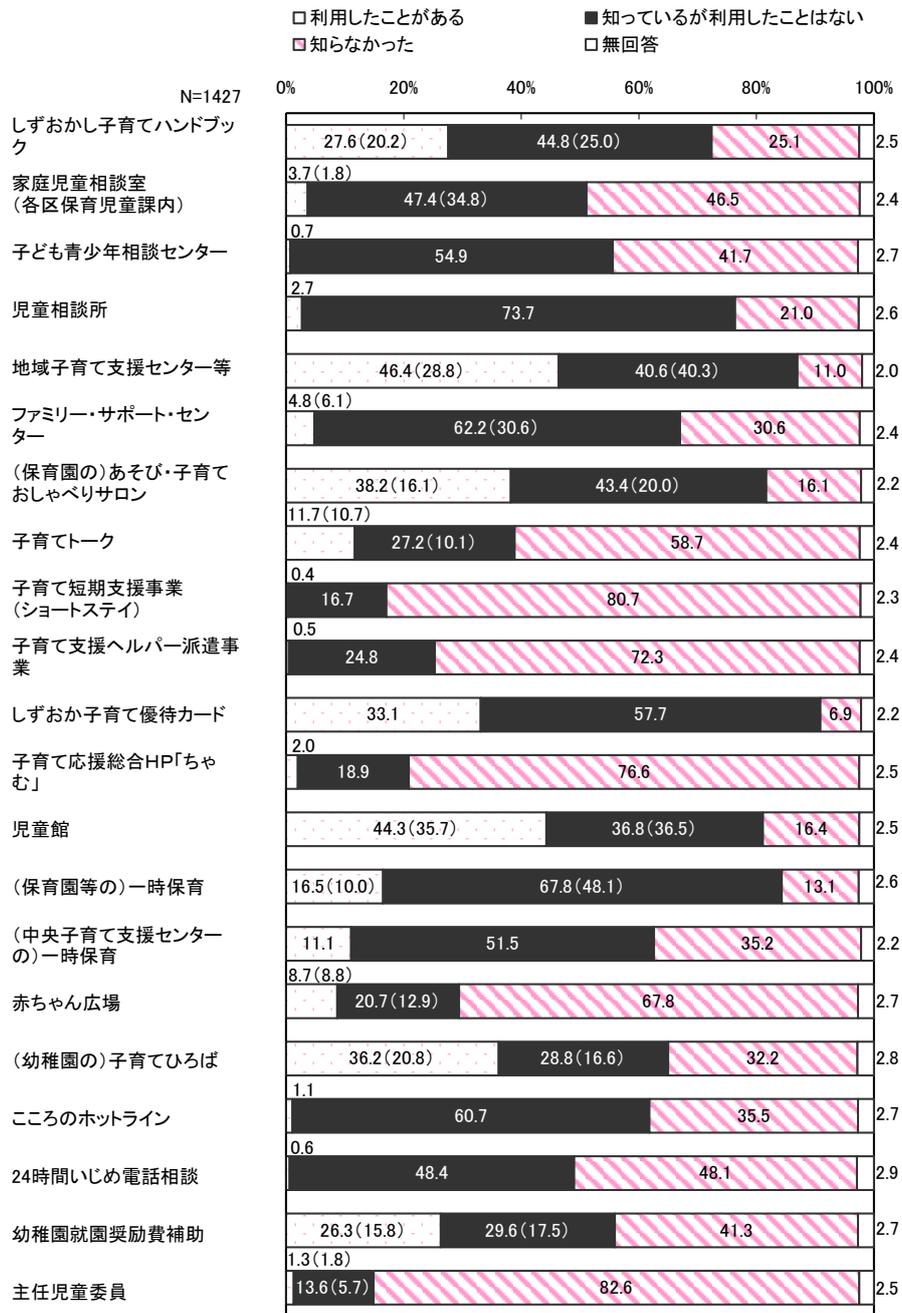
② 実態調査からみた市民評価

就学前児童・就学児童の調査結果によれば、前回調査結果（グラフ内のカッコ書き数値）と比較すると、主な子育て支援サービスに対する認知度や利用率、満足度は概ね高くなっています。

このことから、前期計画を推進した効果が表れていると評価しました。

ア 認知度・利用率

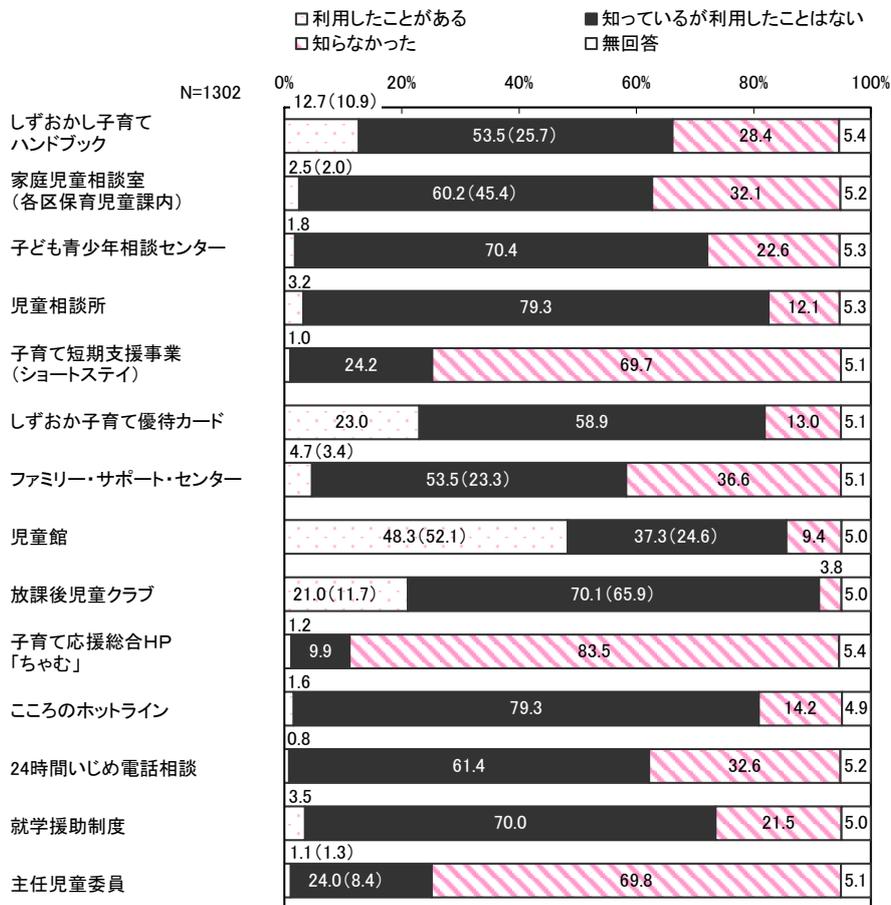
(ア) 就学前児童



(注) グラフ中のカッコ書き数値は、前回調査時の数値

資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

(イ) 就学児童

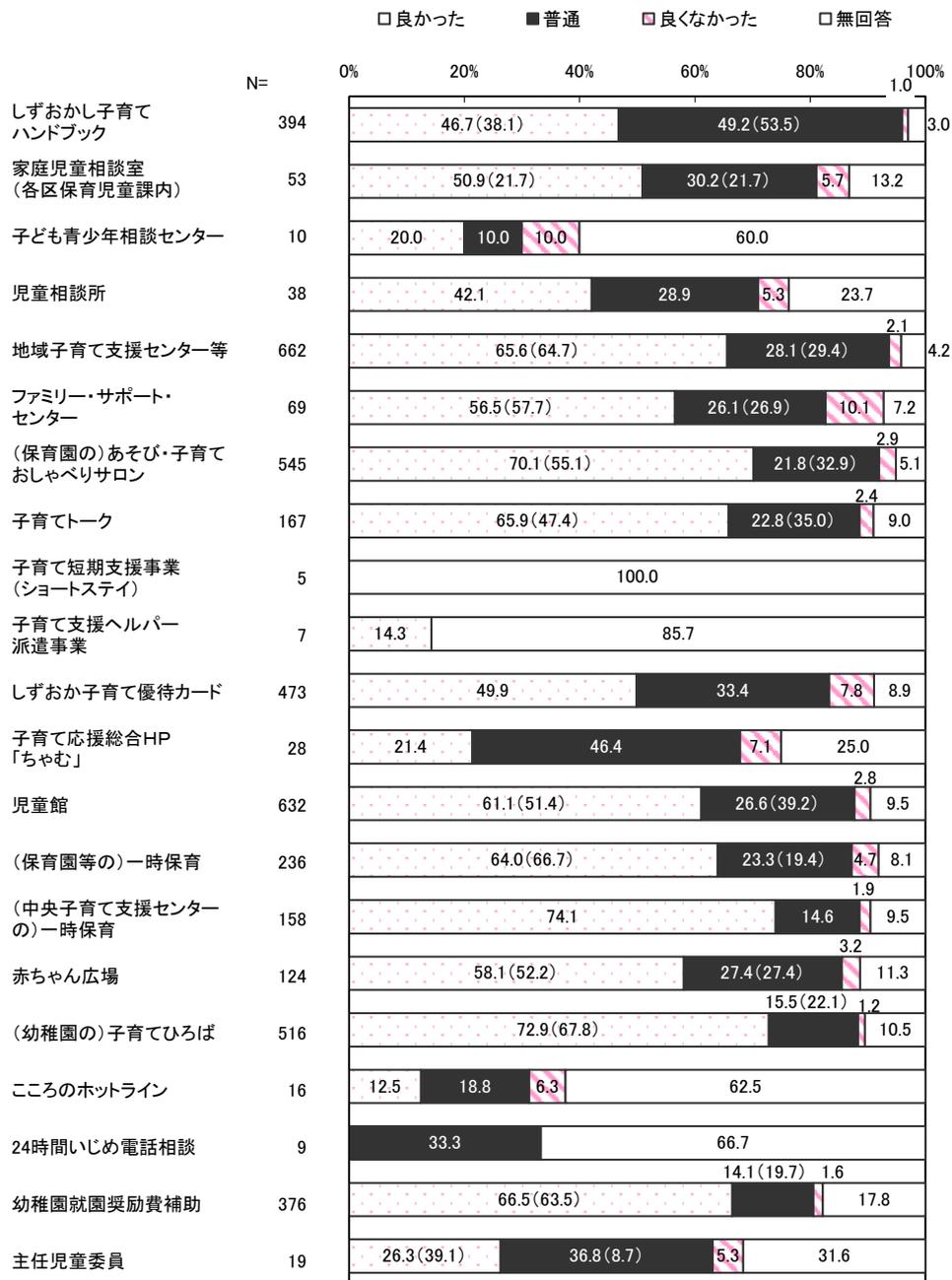


(注) グラフ中のカッコ書き数値は、前回調査時の数値

資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

イ 満足度

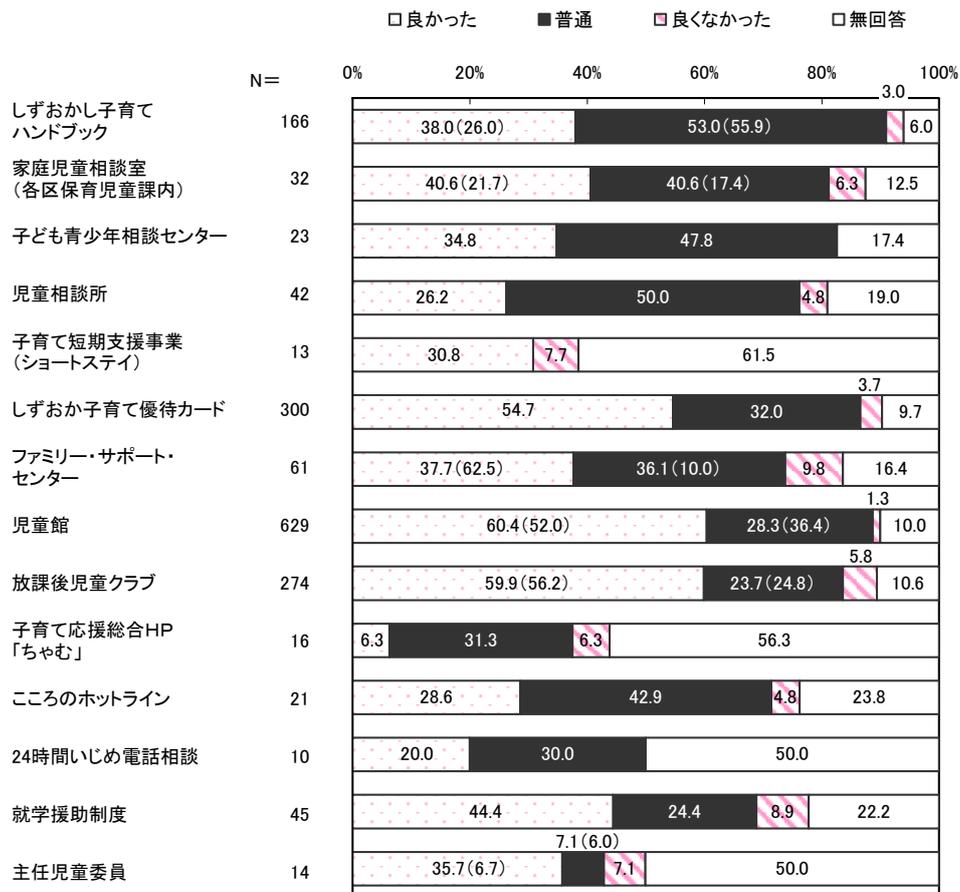
(ア) 就学前児童



(注) グラフ中のカッコ書き数値は、前回調査時の数値

資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成 21 年)

(イ) 就学児童



(注) グラフ中のカッコ書き数値は、前回調査時の数値

資料：静岡市「静岡市次世代育成支援対策に関するアンケート調査」(平成21年)

(3) 基本的な課題

現状分析のまとめや前期計画の実施状況結果などから、次のような基本的な課題があげられます。

- ① 保育サービスを中心とする子育て支援サービスの充実



- ② 子育て家庭に対する子育てと仕事の両立を実現するための取組の推進



- ③ 子育て家庭に対する子育てにかかる経済的支援の充実

- ④ 利用しやすさに配慮した子育て相談支援体制の充実

- ⑤ 日常生活や教育などあらゆる面での子ども自らの成長を支える取組の充実



- ⑥ 子育て家庭をみんなで応援し、支え合う地域づくりの促進

